（大正七年十一月一日第三種郵便物認可 大正十一年十月十日印刷納本）（毎月一回十日發行）

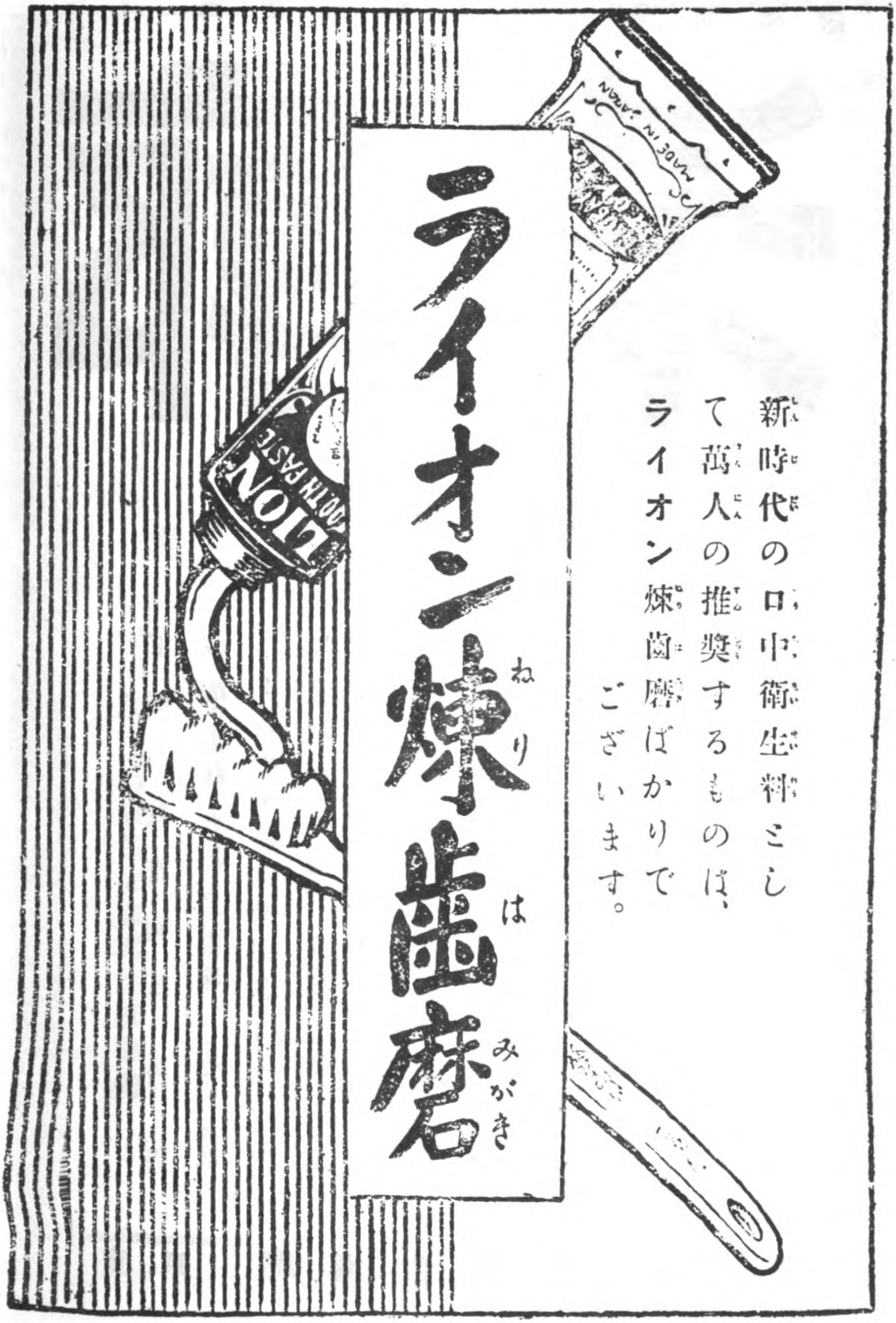
男女貞潔之理想　會長 島田三郎

公娼廢止之主張　副會長 安部磯雄

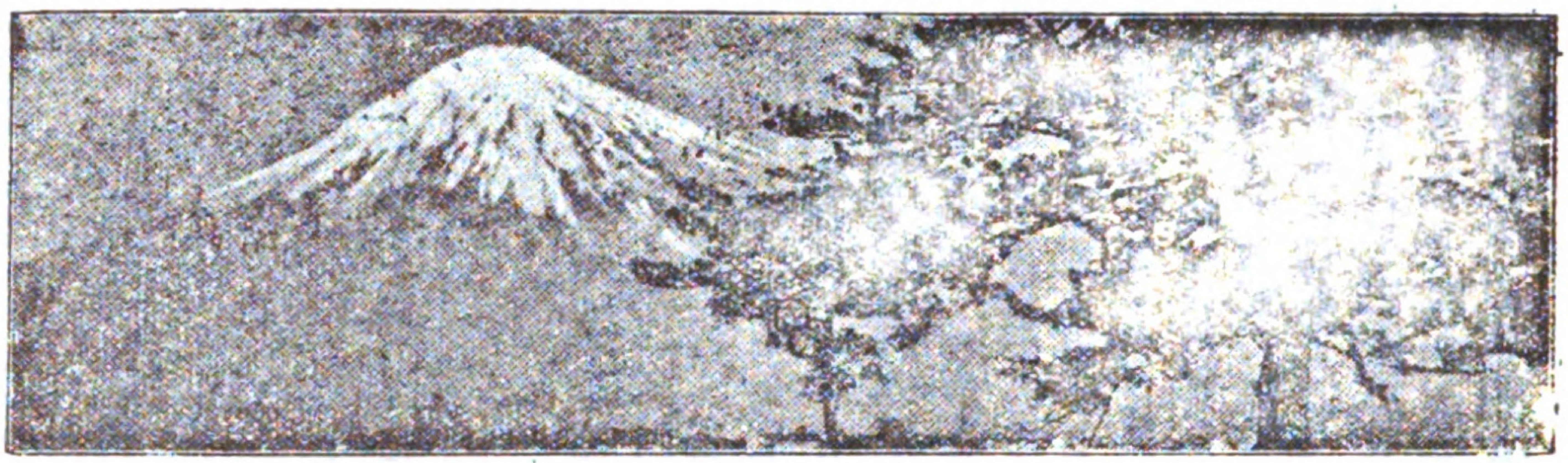
廓清

第十二巻 第十號

東京 廓清會本部 發行



ライオン煉歯磨
新時代の口中衛生料として萬人の推奬するものは、ライオン煉歯磨ばかりでございます。



軍備縮少と教育の根本的刷新

島田三郎

□我國に學政無し

軍制の改革と國民の教育とは、外觀上には全く別事の樣に見ゆるけれども、其質は甚だ密接の關係がある。予は概括して云ふ。從來國力を軍備の一方に傾けたのであるが、今は此方針を變じて列國の協同並に時代順應の結果として、殊に軍備制限の華府會議を協定した加藤君を首班とする現内閣に於いては、大に海陸共に軍事費を縮少し、其の剩し得る資金の多分を第一に文治の費用に轉用すべきであると。國内に在つて國際的比較研究の機會に乏しいものは、我國現在の狀態を以て滿足するであらうが、文章あり、識見あり、苟も世界的研究を爲すべき機會ある人々は、我國の現狀を以て滿足することが出來ないであらう。衞生交通土木森林農漁商工業百般の事に至るまで、歐洲諸國の狀態に比して、五大國の一に居るを忸怩として愧ぢざるを得ない。之を要するに、經營料理の材に乏しく、文化の低劣なるを自認せざるを得ないのである。論じて此に至れば、人民の能力低劣といふことに歸着する。是れ我等の所見のみではなく、當局者も亦社會各般の世界共通の事に關して、多くの除外例を要求することに徵しても之を證することが出來る。

是に於て議論は人物養成の點に歸着せざるを得ない。一方公人として社會に盡す義務の觀念を養成すること、是は學校以外の社會的最大教育である。他の一方は學制を一新して力を教育の方面に注ぎ、將來の日本國民をして、文化の上流に居らしめんことを期せねばならぬ。現在の狀態を見るに我國に學政無しといつても宜しい。國民には知識の欲求年と共に長ずるも、政府は之を待つの道を開かない。其弊害として、國民をして、未來に囑望するの念を失はしめ、快活の生氣を銷磨せしめんとして居る。上は大學より下は義務教育の小學校に至る迄て、學生を容るゝの餘地無く、幾多の好青年、無邪氣の幼童をして、社會薄遇の嘆を發せしめ、人民の活氣を減殺する。是

より甚だしき虐待は無いのである。

□教育の破壊

明治維新に政治の根據とすべき法令が二つあつた。一は徵兵令、一は教育令である。徵兵令出でて武士の特權が破れ、階級打破の一端が玆に起つた。教育令出でて士に非れば學に入れずとの舊制を變じて、國民悉く教育を受け、國民の品格能力を養ふの義務を課せられた。是れ亦階級打破の精神を智德開發の方面に示すものである。當時人民未だ教育の要を解するに至らず、有志の子弟の高等の學校に入つたものはあるが、一般人民は義務として小學校に入るものは尠かつた。是に於て政府は地方官をして父兄を諭し、法律の命ずる所の義務就學を督促したのである。明治初年に改革精神の意氣盛であつた時代の教育は、實に此の如くであつた。

年代は低きものを高からしめ、近代我國民は其子女を學に就かしむるを以て、父母の第一義務と感じ、貧しきも尙ほ窮を忍んで子女を小學校に送らんとして居る。國民は斯く進步した。而かも官吏は退步した。之に對する設備を爲さずして幼童少年の學に就くべき場所を備へず。之を指導すべき敎員を置かない。往年は級數を定め、兒童の數を割當てゝ、一人の敎員に若干の兒童と限定して、一人に過多の生徒を受持つことを禁じたのであつたが、今日は之に反して每級兒童の數を增し、辛うじて兒童收容の法方を講じて居るけれども、尙ほ入る者多くして容るゝ場所が少い、窮餘遂ひに二部教授、三學級二敎員といふが如き變則の制度を採用する所が多い。甚だしきは之を天下に普行して一般の定則と爲さんとするが如き、是れ全く敎育根の柢を破壞するものである。

現在既に器械的教育の弊に堪へず、薰陶感化の餘地無きを嘆ずる者がある。然るに二部敎授、三學級二敎員の制度を普行せば、敎員の疲勞困憊、器械的敎育だも之を施すの不足なるを知るべきである。斯の如き制度は學校を電車とし敎員を車掌とし、前客去れば後客直ちに入ると何の異なる所は無い。何の敎育があらう。何の薰陶があらう。更に驚くべきは相當信用ある小學に入れんとすれば、志願者多くして入學試驗を施し、合格者を入れて他は皆排斥さるゝのである。小學校の兒童に對して入學試驗を行ふが如き學政を見るは、我國を除いて他に例を見ないであらう。

□中學校の不足

中學校に至つては更に甚だしきものがある。小學校卒業證書は是れ中學入學の證劵である。此證劵を握る者も尙ほ中學に入ることが出來ず。千人の志願者中入學し得るものは僅かに二百五十人に過ぎざる如き狀態である。而して其排除された七百五十人の少年は、如何に其前途に失望するであらうか。父母之を願ひ、學生之を望み、唯學校の足らざる爲めに此蹉蹶を來すのである。此の如くして尙我國に學政ありといふべきであらうか。現在の通弊は學生が試驗に苦めらるゝの一事である。唯其點數を多くして合格せんことを望み、刻苦過度、必ずしも要用ならざる學課に頭腦を惱まし、氣力を分ち一方には十分咀嚼されない、唯學んだといふ名義だけに止まる勉

强を爲し、一方には身體を疲勞せしめて健康を壊るのが流弊てあつて、全國の青年皆然らざる無き狀態てある。

此一事直に國民の氣力を痲痺せしめて、屑々たる小人物を輩出せしめ、其弊擧げて數ふべからざるものがある。實に中學入學難は左の新聞記事に徵するも其一端を知ることが出來る。曰く。

都下(東京)に於ける各中學校の入學難は年を追うて高まつて來るので、府(東京)では狀況研究の爲めに、官私立卅八中學校に吏員を派遣して、各學校に保管中の本年度入學志願者に依り、各人別の調査票を作り、それに依つて同一氏名のものを拾ひ分け、其入學志願者の實數を調査した所、志願者二萬三千四百三十五名中、實際の人員は一萬二千百二十二名て、一人て一校を志願したものゝ六十八名、二校を志願したもの二千八百四十五名、三校が一千六百九十三名四校が九百十二名、五校が三百十二名、六校が百十六名、七校が三十三名、八校が二名、最も欲張つて九校を受けたものが一名といふ奇妙な結果が現はれた。(中略)尙ほ全體に亘つて調べて見ると、本年度は各學校て收容した人員は、五千二百七名、中學校受驗者が如何に困難して居るかゞ具體的に判つた譯である。(大正十年九月萬朝報)

右に揭げたのは東京府下の實例てあるが、市內は郡部より此感は更に多からう。父母が其子女を中學に入れんとするの困難此の如く多く、而して今後人民の敎育を重んずるの氣象益々進むに從ひ、此困難は全國到る處に增大するてあらう。我國當局者は此點を如何に見つゝあるか。明治初年に於ては政府より國民に對して敎育を奬勵し、大正の今日に於ては、政府が之を阻止せんとして居る。世界各國の競爭激甚なる時代に於いて、我國は最も多く智德の啓發に努めねばならぬ事情があるのに、事實之を阻碍するに至つては、前途に冀望無く、轉た寒心に堪へざるものがある。

□教育の必要

予等は戰爭の絕滅を理想とするものてあるが、戰爭必要論者と雖も、國民の知德を進めないて、國家を强からしむることの不可能なるを悟るてあらう。特に現代の軍備は科學に立脚して居るに、兵の强からんことを欲して敎育の根源を顧みざるが如きは、不合理是より甚だしきは無い。勞働者の能率上に敏感なる差異を生ずることが首肯さるゝならば、何故に獨りそれが軍隊の能率上にも、影響すること無しと考へられるてあらうか、特に其の科學的智識の必要が愈々益々軍隊內に强く認められる今日に於てをや、予は是に於てウイリアム氏の『國民は平時に於て其平生保養し來れるものを貯藏し、武力に訴ふるに際して、世界無比の氣力を以て、表面に現れ來らねばならない。時局に對するに於て、此氣力の外他に何物か有らう』の一語に滿幅の同意を表して之を我國民の前に反覆するものてある。

予は二重の意味に於て敎育の必要を思ふのてある。卽ち國民を啓發し、德性に於て責任を重んじ、事實に於て誠實を尊ぶ國民、理性に於て道理を解し、學識を有し、事に當つて諒解ある人民は平和の時代には國力を增進するの民てあり、戰爭に臨んては敏活勇敢に護國の任を盡すの能力を發揮する兵てある。且平生國力增進を圖り得る結果、國富み、家纏り、事あるに際して一層强兵の實を擧ぐるの冀望を抱くことが出來るのてある。

政治生活と社會生活

廓清會副會長
早大教授　安部磯雄

此の夏、私は早稲田大學の校務を帶び栃木、福島、群馬を初めとし、宮城、岩手の各縣から北海道の方面まで旅行したが、其の間に種々考へさせられた事の中に、最も痛感したことは我國の政治生活といふものが、甚だ不自然極まる發達を爲して居るといふことであつた。少くとも私の觀る處では、到る處に於て面白からざる情態を見聞された。

□　我國民性の勝負事に對する觀念

理論の上から言へば政治生活といふことは、畢竟政黨生活といふ事の方が妥當であるが、その政黨政治生活上の觀念が我が國民の間に十分なる理解があるやうには何うしても見受けられない。全國到る處に於て種々なる忌はしき問題が惹起され、遺憾なく我が國政治生活の幼稚なる事實を裏書して居るのである。眞に悲むべき事であるけれども、國民各自が覺醒した上でなければ、弊害は依然としてその根を絶たずして續くてあらうと思ふ。私は此の缺陷の依つて來たる所以のものに就て斯う考へたい。それは我が國民が勝負事に對する執着心が餘りに强烈に過ぐるが爲めではないかと思ふ。政黨生活上の話に就て、遂に勝負事の觀念が何うの斯うのといふことは、辻褄の合はぬやうな嫌があらうけれども、勝負事に對して恬淡な心を持つ事が出來得ない、否持たうと努めない我が國民の執着心が、延えて政黨生活の上に迄も及ぼして、今日の如き情態かを爲してるのではなからうかと考へるのである。

□　政黨生活に及ぼす幾多の弊害

由來我が國に於ける勝負事の中て、碁、將棋、角力、かるた等は隨分古から行はれ來たつたものであるが、更に最近野球、庭球、ボートレース或はマラソン等の外國より輸入された運動競技の試合振りを觀るにつけ、その勝負に頗る強烈な執着心のあるのを見受けられる。たゞ勝ちさへすれば良い。是が非でも負けてはならぬ。何うしても勝たなくてはならぬ處いふ執着心が遺憾なく發揮されて、遂には苦々しき野次振りまでも見受けられるといふ事は、我が國民性が勝負事に對して恬淡な心を持つてゐるといふ事が首肯出來ない證左である。之れは確に我が國民性の大なる缺點であつて、是れあるが爲め遂には目的の爲めには手段を擇ばずの擧に出て其間に忌はしき弊害が生ずるのではあるまいかと思ふ。

斯くの如く、勝負事に對する執看心が強烈なる我が國民性は、政黨生活の上にもその觀念が働き、我が黨が勝ちさへす

れば良い、負けてはならぬといふ目的にのみ執着し、その爲す處などは少し位なら非をも敢へてして勝利を得ようとする事になつて、其處に幾多の弊害が惹起されるに至るのである。けれどもその弊害が、政黨間にのみ止まれば未だ恕すべき點もあらうが、時には社會生活上に迄もその累を及ぼし、遂には神聖なるべき教育、宗教界にも災ひが轉ぜられるといふに至つては眞に痛嘆至極と謂はなければならぬ。

□ 政黨擴張に教育問題の惡用

右の一事實を今回の旅行中福島縣白河町に於て見聞した。由來福島縣といふ處は極めて政黨爭ひの旺んな處で、料理店、旅館等の如き一般の客を迎える事を業とするものゝ如き間にすら、根强い政黨關係があつて、彼の料理店は何々黨、彼の旅館は何々黨といふやうな夫々政黨分けになつてゐる。其處に行く人迄も又從つてそれに屬する政黨派のもの許りであるといふ、それ程政黨色彩の濃厚な處であるから、すべての問題は直に政黨爭ひの用具となり、神聖なるべき教育界までが遂にはその累を受けるに至つて、頃は昨年であつたが、此の白河町に縣立中學校設立の運動が町民の間に協議されて有志が其目的の爲めに運動する事になつた。するとそれが忽ち政黨關係に波及して其處に忌はしき事が起つたのである。

元來白河町といふ處は、この町民の大部分は憲政會であつて、割合に政友會派は少ない處から、此の機逸す可からずと見て取つた政友會派の多數の縣會議員は『若し此際町民が擧つて政友會へ入黨するなら中學設立に同意して可決して遣らう。さもなくば飽く迄その設立に反對して、否決の浮目を見さして了ふ』といふ態度に出てて町民の欲求心に乘じたのであるといふ。縣立中學校の設立を熱望してゐる町民の事であるから、それなら擧つて直に入黨するから是非その設立を可決して貰ひたいといふ交換問題で落着し、愈々設立の事に決定したといふ事であるが、之れなどは全く不都合千萬な事と謂はねばならぬ。憲政會派の人達が之れを觀て默つて居られないのも無理がない事であつて、猛烈に反對したさうであるが、何分多數を占めてゐる政友會の議員の爲に、何うする事も出來なかつたといふ、殆と泣寢入りの姿に了つたさうである。

□ 我國民性の患ふべき缺陷

中學校設立には何人と雖も反對する理由はないが、偶々政黨關係から教育問題を兎や角するといふ事は甚だ面白くない事であつて、何を措いても反對しなければならない事柄と思ふ。これは一例に過ぎないが、若し詳細に互つて探査したならば、到る處に斯く如き事實があるに相違ない。が、是等は要するに理解なき政黨生活より生むだ弊害であつて、それといふのも國民の心が政治生活と社會生活とを混交視してゐるが爲めに外ならぬものと。私は斯く考へて居るものである。殊に現在我國民の間に、政爭より生ずる弊害が漸次その度を甚からしめつゝあるといふ事實を觀るにつけ、患ふべき現象であると思つてゐる。何れの國を問はず其の國民の間に黨派心が旺盛であるといふ事は、大なる缺點を有する國民性の證左で、

あると見て差支がない。其の立場からいふと我が國民は切實なる留意がなくてはならぬ事と思ふ。何故なれば種々の弊害はその間に生れる事が多いからである。此の點から見ると外國人は極めて黨派心といふものが薄い。政爭に對する觀念が頗る恬淡である。何か政治上に於て黨派的に爭つても、一度び社交上に於ては全く前の爭ひ當時の事などは忘れたかのやうな態度を以つて、何事も一緒に力を致して居る。從つて敎育事業に關する問題などを政爭の用具にするやうな忌はしき事は殆どない許りか、互に協力して社會上の事に當つて居るから、他から觀ても非常に愉快に感ずるのである。併し熟く考へればそれが當然であつて是非とも然うでなくてはならないのである。

□ 政治生活と學閥構成との關係

我國政治上に於ける多くの弊害は、一般の勝負事に於ける勝敗の執着心たる一つの惡い氣分から起るのであるから、是非とも國民各自が玆に留意する要がある。

何故かなれば前にも述べた如く、その弊害が政治の上だけで濟めば兎も角政治以外に災を及ぼす虞れがあるからである。現に神聖なるべき教育界にまでも其の累を及ぼし、國内に學閥を作るやうになつて來たのを觀るも忽せにする事は出來ないと思ふ。假令へば官學と私學といふが如き、社會的に出た曉に於ても黨派を作つて互に嫉視反目して居るのを見るが、更に官學の中でも赤門派とか、明踩派とか或は商大だとか藏前だとか自分達の出た母校の名に依つて旺んに學閥を作つて居る。一方私學出の方でも早稻田、慶應、明大など、各自に學閥の爭ひを爲しつゝある。何も學閥その者が惡いと云ふのではない。或る程度迄の、極めて健全なる競爭ならば敢へて差支はないが、現今の如く斯樣に黨派心が强烈になつては、將來ますゝゝその度を高めて遂には怖るべき弊害を誘起しはせまいかといふ懸念があるからである。謂ふまでもなく學校といふものは然ういふ性質のものではない。

□ 彼我卒業生の相違點

何學校を出たの、彼の學校を卒業したのといふことは深く考へれば極めて小さな問題である。國民全體として行くには寧ろそんな感じがない方が都合が良い。獨逸などでは廿二三の同程度の大學があるけれども、決してそんな學閥などを作つて爭つてゐるといふやうな卒業生の居る事を聞かない。尤も獨逸の教育方法、就中大學などは我國などと大にその趣きを異して、中學校を出てから大學に入學してもその卒業證書を出さない事になつて居る。何年間勉强しても又學科が優秀であつても決して卒業證書は出さぬ事になつて居るから、勢ひ實力主義で行かなくてはならぬ關係上、一つの學校で長い間勉强する學生もあるが、大抵は各大學の特長を覗つて轉々として移動して行く者が多い爲もあらう。その結果母校といふものがない譯であるから、勢ひ學閥などがない爲め我國に於けるが如に學閥の爭ひなどゝいふ小さな爭ひが見られない譯でもある。我國にも此の好傾向があつて欲しいと思ふ。何々出が何うの斯うの云つてゐるやうな左樣な極めて偏見な小さ

い度量を排して國民全體として行かなければならないのに我國に於ける目下の情態は赤門出身だとか、早稲田出身だとか、或は三田出身だとか云つて、自分達の閥を形成し、その黨派の中に入つて了つて我が黨派が頗る好いものとし、他の黨派を嫌ふやうな偏見な氣持ちに陷つてゐるやうてあるが、斯く同じ母校の出身者許りが相提携して活動して行くといふ事は甚だ喜ばしい事てはないと思ふ。

□ 輸入遊技と國民性の淘冶

斯樣に諸々の點から考へて見れば、我が國民の缺點が十分了解する事が出來る。之等の缺點に依つて生ずる所以のものは、結局我が國民の通有性として勝負事に對する執着心が餘りに强烈に過ぎる結果に外ならない。執著心が旺んてあつて恬淡な心て對するといふ事が何うしても出來ないからてもあるが、翻つて考へて見れば斯くの如き通有性を持たしめるに至つた大部分の罪は勝負事それ自身にもあると思はれる點もないてはない。言葉を換へて謂へば、競技そのものが勝負に對する執着心を確に强からしめてゐると思ふ。

此の點から見て將來ます〳〵盛んにならうとする、外國より受入れた競技の方が喜ばしい希望を持つ事が出來ると信じてゐる。私は在來の我國民性の缺點たる勝負事に對する執着心の强烈さが餘程外國の競技そのものに依つて匡正されて行くに相違ないとの樂觀を持つて居るものてある。現に今時の靑年が勝負事に對する執着心を持たぬやうに訓練されつゝあるのを觀るにつけても大に喜ばしい事だと信じてゐる。假令へば野球試合の場合に於けるが如き事實に徴しても、以前とは全くその見物人の態度が異つてゐる。それ許りてはない。見物人の態度の一變して來たと同時に、直接その競技に當つてゐる所謂選手の心持ちが餘程變つて來たやうに見受ける。私の考へてはこの勝負事に對する恬淡な心が決してそのもの許てはなく、他にも其の態度を持つて物事に當つて居るに相違ないと思ふから、その淡白な心根を持つて勝負事に對するといふその事が甚だ有望なことだと信じてゐる。

□ 野次氣分の我國民性

我國民の大多數は政黨政派の爭ひを、宛然角力でも視るやうな氣持ちて居る。角力の見物人がワイ〳〵騷立てるやうに、他の者が頻りに騷ぐ、そして事を不愉快にして了ふ。所謂猛烈なる野次氣分が漲り渡るやうな事が屢々ある。此下劣な野次氣分が、最近の運動競技によつては、却つて之等忌はしき醜態がないこれ丈け餘程善良なる方向に進むに相違ないと信じて疑はないのてある。而して此の訓練が次第に積まれて行くに從つて、野次氣分といふものが次第に薄らいて行く。もう一歩進むと野次といふ事が非常に惡いと思ふやうになつて來る。と同時に一面恬淡な心が生じるに從つて勝負事の上に野次といふものが全く影を止めないやうになる。否野次氣分すら全く起らなくなるに至ると思ふ。

此の意味から考へても我々の態度一つて、現在の政治上にも又政黨上にも改善を加へる事が出來る道理てある。現在の政黨が盛んに下劣な事を遣るのも、それに直接關係のない他

の人々所謂が運動競技に於ける野次氣分同様の態度で騒ぎ立てるからであらうと思ふ。餘りに他の騒ぎが大きいものだから直接の關係者は勢ひに乘じて種々の事を遣り出すのである我國に於ける政治生活と社會生活とが區別されてゐないのもこれが爲めであつて、政黨爭議の常に絶えないのも無論その結果に外ならないのである。若し政黨爭議といふものがその後を絶ち、政治生活と社會生活との區別が劃然と付くやうになれば、議會に於ては大に爭ふても一旦社會に出た以上は相互に提携し合つて事を運ぶやうになるに相違ない。が現在では悲しい哉未だに此の間の缺點が除かれずして議會を見る事、恰も角力でも觀るやうな氣持ちで國民が居るといふ事は洵に痛嘆に堪へない次第である。

□ 運動競技より延いて社會の改善

毎年議會の失態が續く。國民はその大失態を角力でも見るやうな野次氣分で手を叩いて囃してゐるが、之れは甚だよくない事である。私に言はしむれば議會の大失態の責任は議員にあるのではなくて、寧ろ周圍の人々にあると考へるものである。議會を監視せなければならない立場にある周圍の人達の態度が甚だ面白くない。全くの野次氣分で相對してゐる、眞面目といふ事を缺いてゐる。だから議員の或る者などは、其の野次氣分に迎合すべく極めて下劣な行動をさへ敢へてするに至るのである。第一この罪は新聞記者にもある。新聞記者の態度が宛然面白半分であるから、その書く事も又從つて不眞面目極まつてゐるので、それに投じようとする議員が頗る奇拔な事をやる、すると新聞記者は尚一層之れを面白半分に書く。斯くして益々議會といふものを墮落せしめて了ふのであるが、之れは實に新聞記者の餘程考へなくてはならない事だと思ふ。新聞記者の態度が極めて謹嚴であれば、議員の態度は勢ひ眞面目になつて行くのは勿論である。何故かなれば失態を演ずるが如き事あらば容赦なく筆誅されるから、嫌でも應でも態度が變つて來るけれども、新聞記者にこの考へがない間は、彼の醜態をして矯める事は出來やう筈がないのであつて、是非とも非なる場合には容赦なく筆銖する事にしたいものである。と同時に一方國民も亦不眞面目な事をする議員を再選しないやうにすれば、議會の空氣は忽ち一變するに相違ないと思ふ。

斯くの如く政治生活と社會生活との區別のない我が國でも運動の方面より漸次野次氣分を薄弱ならしめ、他の社會のあらゆる方面より此の氣分を取り去る事に努力するならば必ずや其の間に區別がつくやうになると思ふ。野次氣分とは前述の如く勝負事に對する强烈な勝敗の執着心であるが、この執着心が薄いて行けば、恬淡な心となり延いて社會をして善良なる方面へ導いて行くに相違ないから、此の點に力を致する事も將來必ず效を奏するに相異ない思ふのである。

> 人もし正義の觀念なく、事物に實際誠實を缺く事あらば其人の才幹卓拔なるに從つて、其弊益々大なるべし。才幹あり智能あるも之を約するに高遠なる理想を以てせずんば社會に及ぼすの害毒は擧げて數ふべからず。　ルーズヴルト

日本政治家の貞操觀念

一條忠衞

一　儒教の政治道德

支那の政治は古來より二つの方式によつて行はれて居た。一つは覇道であつて、他の一つは王道である。この二つの政治的意義に就いては、孟子はその著の公孫丑章句上に說明して居る。『力を以て仁を假る者は覇なり。覇は必ず大國を有つ。德を以て仁を行ふ者は王なり。王は大を待たず。湯は七十里を以てし、文王は百里を以てせり。力を以て人を服する者は心服するに非ざるなり、力贍らざればなり。德を以て人を服する者は中心より悦びて誠に服するなり。』と云つて居る。今これに由つて觀れば、覇道は武斷侵略を手段として權謀術數を用ゐるとを以て政治と心得るものであつて、王道は德望人格を手段として仁義を行ふことを以て政治と信ずるものである。前者は申商韓非の學となつて傳へられ、後者は孔孟の學となつて傳へられた。此の二つの政治思想は支那の二大政治論を形成して實際社會を支配したのであるが、遂に歷代の經驗によつて王道が理想の政治論になり、儒教として社會を敎化する唯一の名敎となり、支那の政治と謂へば事實に於ては覇道の權謀を行つて居ても、理想に於ては王道でなければ人民が承知しないやうになつたのである。そこで如何なる時代に於てもその政府は儒教によつて國民を敎育し、家庭は孔孟の道によつてその子弟を薰陶するに至つたのである。斯樣にして支那の政治は全く儒教によつて支配される政教一致の方式を取るやうになつたのである。そしてこの思想は日本の社會に輸入されて、應仁天皇以來の政治を敎導するやうになり、奈良朝時代でも、平安朝時代でも、鎌倉時代でも、德川時代でも、儒教によつて爲政の理想を樹て、その手段を講じて文物百般の制度を支那の典章に求めて王道の實現を念じたのである。

今この儒教を見るに、これは古の先王の行つた治民の道であつて、孔孟はこれを仁義であるを解し、王倫五常であると爲した。これが謂ゆる大學の道であつて、學んで大人となり、君子となり、大丈夫となる道であると解した。この大學の道は明德、親民、至善の三綱要を基調とするものであつて、これを天下に實現するには修身、齊家、治國、平天下の順序に進むものであるが、修身は實にその根本であつて王道の始てあると爲した。斯樣に儒教は治民の道としての政策であるが、同時に國民を敎化する德育になつて居るので、大學の道は政治の最高理論であると共に國民が踐んで以て身に行ふへき倫理道德になつて居るのである。吾々の父祖は應仁天皇以來明治維新に至るまで、この大學の道によつて敎育されて、王道を實現する爲めに各自に君子大人たらんことを希望した

謂ゆる儒教國民である。先づ身を修めて而して家を齋ひ、家を齋ひて而して國を治め、國を治めて而して天下を平にせんことを理想とした者である。そこで誠意正心を旨とし、致知格物を究めて政治道德の哲學的基礎を尋求して居たのである。孔孟を鼻祖とし、程朱を先師とし、或は乘山陽明を先師とし、惺窩、羅山、藤樹、仁齋、徂徠、素行、尊德、闇齋其他の儒者を先達として王道を研究したのである。斯様にして日本國民の政治的思想は、常にこの一群の儒者によつて誘掖扶導されて、修身と治民とを同時に行ふことによつてその政治的生活を實現する方式に發達して來たのである。これは明治維新までの日本社會に於ける政治上の一大特色であつた。

二、儒教の貞操道德

儒教の政治道德は政教一致の趣旨に基き、修身と治民とを渾一して、仁義を實踐躬行してその人格德望を以て統治することを眼目としたものであるが、今この趣意の政治道德から男女の道德に對しこれを如何様に解釋して居たかに就いて、こゝで一瞥を加へて見たいのである。抑も儒教は男女間の道德に就いて如何なる法則を理想として居たか。先づ儒教の原理として奉ずる仁義の部門を見るに、天下の達道として君臣、父子、夫婦、兄弟、朋友の五倫を掲げて居るが、その夫婦と云ふのが達道の一つになつて居て、夫婦の別として仁義の一端を爲して居る。卽ち儒教では夫婦の別と云ふ道德を以て人間の人間たる資格の一要素として見做して居るので、これを身に修めなければ家を齋ふことが出來なければ國を治めることが出來ず、國を治めることが出來なければ天下を平にすることは出來ないと見て居るのである。それならば斯様に重大なる問題としての夫婦の別と云ふ道德は抑も何であるか。換言すれば王道を天下に行ふに當つて是非ともその身を修めなければならぬ夫婦の別と云ふ男女道德は一體如何なる意味のものであるか。これに就いては、色々な說明が出て居る。易の序卦傳では、『天地ありて然る後に萬物あり。萬物ありて然る後に男女あり。男女ありて然る後に夫婦あり。夫婦ありて然る後に父子あり。父子ありて然る後に君臣あり。』と說いて居るやうに夫婦の道は殆ど儒教の根本精髓であるやうに論ぜられて居る。又た中庸を見れば、『君子の道は端を夫婦に造む。その至れるに及びて天地に察なり』と云ふやうに、夫婦の道は王道の發端を爲して居るやうに書かれて居る。又た禮記の內則を繙けば、『禮は夫婦を謹むに始まる。』とあつて、夫婦の道は人間の禮儀の創始となつて居る。又た易の下經には咸と云ふ男女の卦が出て居る。荀子はその著の大略編で下の如く云つて居る。『易の咸は夫婦を見はす。夫婦の道は正うせざる可からざるなり。君臣父子の本なり。咸は感なり。高きを以て下に下り、男を以て女に下る。柔上にして剛下にす。』と。又た荀子は非相編で斯う云つて居る。『夫れ禽獸は父子あるも父子の親なく、牝牡あるも男女の別なし。』と。男女と云ふ語は實に儒教では人間の人間たる所以の資格として、そこに人格的觀念を有するものになつて居る。

斯様に儒教では夫婦の道を非常に重んじて居る。男女の彝倫を正してその身を修める爲めに、男女道德を以て王道の隨一であるやうにも考へて居たのである。殊にその哲學的基礎

論としては、天地陰陽の原理を説いて男女乾坤の人生的意義を力説したことは最も詳細を極めて居る。その研究に於ては矛盾した點や杜撰な點や誤解した點があるとしても、これを重んじて男女兩性の理想を明示し、これを王道の一部門と見たことは大に正鵠を得たものであつて、儒教に一大特色を與へたものである。明徳を明にして民を親しみ至善に止まるには、先づ男女の道徳を身に體現してからで無ければならぬと主張した點は、眞に儒教が千古不磨の名教としてその價値を永久に發揮した點である。隨つて儒教の經典には男女の地位や、職掌や、結婚や貞操に關する道徳は到る所で論ぜられて居るのである。茲ではその中の貞操に關する道徳觀に就いて二三の代表的典籍を調べて、本論文の前提としたいのである。

儒教の經典の中に書經と春秋の二書がある。前者は唐虞三代の政治道徳史であつて、後者は魯の隱公元年より哀公十四年に至るまでの政治道徳史である。この兩者を讀んで見ると國家興亡と個人の消長とが手に取るやうに明記されて居る。そしてそれが悉く人間の修身に由來した品性の問題になつて居る。就中最も著しい近因は好徳と好色との差になつて居る。修徳に勉焉たる國家や個人は發達したが、淫佚享樂に耽つた國家と個人とは滅亡して居ることが、特筆大書されて居る。湯王や文王はその前者に屬して居て、桀紂は後者に屬して居る。春秋の筆法と云ふものは畢竟するに、好徳と好色とに對する勸善懲惡の道徳的制裁になつて居る。孔子はこれを論語の中で歎息して居る。『吾れ未だ徳を好むこと色を好むが如き者を見ず』と、伊藤仁齋はこれを論語古義の中で解釋して斯う云つた。『學んで徳を好むに至るときは其の學已に實なり。然れども眞に好む者無し。夫子の歎ずる所以なり。其れ苟も徳を好むこと色を好むが如くなれば、之れを學ぶや眞に之れを得るや實なり。始めて聖賢の言に負かず。』と。これは儒教が如何に修徳を理想として好色を憎み、遊野郎が好色を漁る如くに君子が修徳に努めるかを立證したものである。孔子は又た論語の季氏編で下の如く云つて居る。『君子に三つの戒あり。少き時は血氣未だ定まらず、之れを戒むること色にあり。其の壯なるに及びては血氣方に剛し、之れを戒むること鬪ふにあり。其の老いたるに及びては血氣既に衰へたり、之れを戒むること得るにあり。』と。これは吾々が君子となるに就いて、男女の色を愼むことが如何に徳育の根元であるかを、儒教が説明して居るものである。殊に青年の時は男女の色に溺れ、壯年の時は權力の爭に走り、老年の時は貪婪に陷るのが人性の三戒でありながら、壯年の時に至つても男女の色に溺れ、老年の時に至つても尙ほ男女の色に溺れるなどは沙汰の限りとして嚴格な戒飾を加へることが、儒教の貞操觀になつて居るのである。

孟子はその著の梁惠王章句下で頗る面白い論法を用ゐて、好徳の心に轉換させようとして居る。『王の曰く、寡人疾あり、寡人色を好めりと。對へて曰く、昔し大王色を好みて厥の妃を愛せり。……是の時に當りて內に怨女なく、外に曠夫なし。王如し色を好みて百姓と與に之れを同じくせば、王たるに於て何かあらん。』と云つて居る。これは非常に面白い。梁の惠王は覇道を以て政治と心得て居る人で、王道の何たるかは知らぬ人であつたが、自ら言つて自分は好色漢であると名乘つて出た。勿論これはその好色を誇つて居るのでは無く

6-792

善いことだと思つて居るのでも無く、不德の爲めに致方なき持病だと思つて内心恥ぢて居るのである。けれども德を好んで身を修めることに努力するのが辛いので、空しく好色漢になつて居たのである。孟子はこれに答へるに、文王が色を好んだとして梁の惠王を一驚させて同情を寄せた態にして、修德の志を惹き起させようとして居る。唯だ文王の色を好んだと云ふのは、その妃との間に夫婦の道を躬行して人倫を明にした模範的な男女道德を指して居るので、梁の惠王のやうに數多の妾を蓄いて置いて夫婦の道を亡失する者とは雲泥の差があつた。それで孟子には文王が夫婦の道に專一であつたやうに、惠王をして蓄妾を廢めさせてこの夫婦の道に專心させうとした。一夫一婦の道德を以て假に好色とするならば、惠王の好色は大に歡迎すべき事だと說いて、これは天下の百姓と共に樂しむべきものであつて、我獨り蓄妾によつて樂しむべきものでは無いと論じたのである。蓄妾が行はれたり藝娼妓が存在したりすれば、一夫一婦の道を實現することの出來ぬ怨女や曠夫が出て、王道を害することになる。好色は一夫一婦の意味に於てならばこれは取りも直さず好德であるから結構だが、一夫多妻や一妻多夫の間に行はれるものならば悖德であるから、から云ふものは斷々乎として排斥しなければならぬと云ふのが孟子の貞操觀である。

孟子は尙ほ萬章々句上で下の如く云つて居る。『天下の士これを悅ぶは人の欲する所なり。而れども以て憂を解くに足らず。好色は人の欲する所なり、帝の二女を妻とすれども以て憂を解くに足らず、富は人の欲する所以なり、富天下を有てども憂を解くに足らず。貴は人の欲する所なり、貴きこと天子となれども、以て憂を解くに足らず。』と。これは何う云ふ意味であるかと云ふに、孟子の曰ふに、人は誰でも世間から悅服され尊敬されることを希望するのが人情である。又た性慾の享樂を希望するのも人情である。又た位は人臣を極め、富は天下を保つことを希望するのも人情である。舜はこの總てを兼ねて天子となつて君臨した人であるが、それでも少しも滿足しないで憂へて居たと云ふのである。これは君子の身に取つては勿論の事である。君子は好色や富貴を以て能とする者では無い。假令、帝堯の二女を無理遣理に押し付けられたとしても、女色を以て享樂とする者では無い。明德を明にして民を親しみ、至善に止まつて仁義を天下に行ふことが理想である。樂むには民と倶に樂しみ、否な天下の民に後れて樂しむのが王者の念ずる所である。その爲めには好色は實に唯一の敵であつて、修德の上には蛇蝎に均しいものである。これは實に孟子に依つて述べられた儒敎の貞操觀の特徵である。

荀子も亦たその著の富國篇で下の如く言つて居る。『男女の合、夫婦の分、婚姻娉內、道逆禮なしとせよ。是の如くなれば人は合を失ふの憂ありて、色を爭ふの禍あり。故に知者は之れが分を爲す。』と。これに由つて觀ても明な通り、儒敎では夫婦の道は禮樂刑政の源であつて、一男一女の婚姻を以て人倫と爲すものである。一夫多妻、一妻多夫、亂婚に於ける好色淫佚は王道の斥ける所であつて、君子の恥づるものである。儒敎は實に政治道德を以て眼目とするものであるけれどもそれが爲めには男女道德を重大視すること甚だしく、貞操に

對しては好色、淫佚を戒むること至れり盡せりと謂ふべきである。

三　明治大正時代に於ける日本政治家の操行

前節の如く、儒教は政治を論ずることを以て生命とするものであるけれども、同時に道德を論じ、男女を論じ、貞操を論ずる天下の名教である。支那ではこの名教を幾千年の間傳承して來たのであるが、その成績を見るに功罪半ばして居る。貞操觀念は發達したとも言へるし、發達しないとも言へる。女子の貞操に至つては禮記の內則や女四書の教訓によつて頗る發達したことは、或は世界第一と云つても過言で無からうが、それは人の妻としての婦道に於てのみであつて、一方に於ては妾となり藝娼妓となつて貞操を蹂躪する者が又た夥しいのである。次に男子の貞操を見るに、眞に儒教を學んで大人君子の道を辨へた儒者やその教を奉ずる得道の士に於ては貞操の正しい人が多いが、これを學ばず辨へぬ世俗民間に至つては蓄妾に耽り藝娼妓を弄して彝倫を亂潰して居ること最も甚だしいので、或は世界第一の觀があるかも知れない。遉に同文同種な相柄は違つたもので、日支親善の形で日本の社會に於ても實に同一の觀がある。人の妻となつた者や、眞個の儒者や得道の士に於ては貞操が堅いのであるが、その他の世俗一般の男女に至つては亂倫汚行は大繁昌て、全く鼻持のならぬ國民である。

德川幕府は最も儒教に熱心であつて、古の先王を理想としたゞけあつて、四書五經で政治を行つたのであるから、男女の道德にも留意し、貞操に對しても儒教の教ふる所を眼目として頗る嚴肅なものであつた。隨つて當時の妻たる婦人は女大學の如き教訓によつて薰陶されて、貞婦烈女を輩出したことは開闢以來無いほど多いのである。又た當時の明君や賢臣や儒者や修道の士は女色を愼み、修德に勉勵たることも開闢以來無いほど盛大を極めたのである。けれども、此等の良俗美風は單に儒教的に教育のある男女の階級にのみ行はれたゞけであつて、教育のない一般の社會に於ては貞操の何たるかは殆ど知らなかつたのである。隨つて藝娼妓は大都でも宿場でも村落でも跋扈し、遊野郎はこれを追ひ廻はして享樂の具と爲し、遊廓は天下到る所に存置されて繁昌を極めたのである。又た一方に於ては妾となる女子も蓄妾を行ふ男子も甚だ多かつたのである。そこで德川幕府は四書五經で政治を行ふ體面上よりして、男女の風俗に對して屢々政令を出して取り締り、諸大名は銘々に藩命を以て取締つて居たのである。それで明君や賢臣の世に出でた時には、男女の貞操は緊張して恐れ入つて居たが、暴君や亂臣の多い時には風俗大に亂れて城を傾け祿を失つたのである。

斯くて明治維新となつて封建制度は廢れて廢藩置縣となつた。總ての法制を歐米諸國に則ることになつて、支那の四書五經を廢して今日の六法全書を以て行ふことになつた。そこで儒教は書架の底に藏められて蟲の喰ふに任せられ、金文字の法律は羊の皮で包まれて机上に飾られるやうになつた。然るにこれは非常な禍の種になつた。西洋では政治と道德とを

別々に離して居るやうに見えるが、實は道德は基督教によつて教會で遺漏なく教化されて居るのであるから、政治は六法全書だけで遣つて結構になつて居た。然るに基督教を國教とすることも出來ず、佛教や神道が國教となる實力もない日本の社會では、矢張り儒教が事實上社會の道德を支配して居たのであつた。然るに明治政府は德川政府のこの金科玉條として奉じた儒教を一蹴して、西洋の六法全書で政治が出來るものだと早我點したのである。明治維新の元勳と云はれる人々は實にさう考へたのであるが、これは恐ろしい誤解であつたのである。これ等の政治家は實に政治と云ふものを能く理解して居なかつたのである。單に尊王攘夷の議論にかぶれて、革命を實行した當時の青年壯士に過ぎぬので、政治の高等理論などは知らぬ人達であつた。それで單に歐米諸國の糟粕を嘗めたり、自己の經驗に依つたりして、その日暮しの政治を遣つて來たに外ならなかつた。政治と云ふものは道德と同時に行ふものであつて、身を修めて國を治めることが、西洋でも日本でも同じことだと云ふ眞理を知らなかつた。西洋の政治家は基督教によつて身を修めて德を積みながら、六法全書で政治を行つて居ることを當時の元勳は知らなかつた。それは遂に明治大正の一般政治の人格の上に恐ろしい病毒になつて現はれたのである。明治大正の政治家の人格を歐米の政治家の人格に較べて見るに、そこに著しく見劣りのするのは何の爲めであるかと云ふに、それは政治と道德とを一身に體現して居ると居ないとの差異に外ならないのである。西洋の政治家が生れ付き偉く、日本の政治家が生れ付き馬鹿なのでは無い。彼れの能力が優越して我の能力が貧弱な譯では無い。それは全く修德の上に由來した問題であつて、賢愚聖凡の差別に基くものでは無い。全く人格修養の問題である。卽ち爲政者の修身の問題である。私はその事實を幾らでも論じ立てることが出來る。

試に明治大正の時代に於ける政治家の操行を見たならば何うであるか。明治維新の元勳と云はれた人々は幕末に生れた人々で、或は寺小屋で四書を讀み、或は藩の學館で五經を學んだ人達である。併しそれは素讀を專にしたので、それに毛の生へた講義を聞いた位なもので、儒教の蘊奥を極めた人達では無かつた。殊に亂世に人と爲り、革命に逸り、黃口の一青年が參議になり縣令になつたと云ふ類の人々であつて、學問や教育に於ては正式に修めた者は一人も無かつたやうである。勿儒儒教の政治道德論やその哲學的意義などは儒者に非ざる彼等に解る道理も無かつたのである。隨つて彼等元勳はその自ら擔當する實際政治の急務上から、歐米の制度を輸入飜譯してこれを鵜呑にしたのである。品行も道德も問題にせずに、只管西洋の文物に心醉して、六法全書の駈引や實施にのみ沒頭したのである。從つてこゝに人間の弱點が現はれて來たのである。謂ゆる『德を好むこと色を好むが如き者を見ず』と云ふ現象を呈した。總ての元勳を通じて德を好むよりも色を好むの風を釀成したのである。『英雄色を好む』と云ふ覇道の思想にかたれて、君子の王道を忘れて居たのである。これがまだ下層社會の愚民ならば致方がないとしても、一國の廟堂に立つて王道を行はなければならぬ爲政者が斯うなつたのであるか

ら、その政治が何う結末が附くかは何人にも想像されるのである。彼等明治の元勳は唯一人として操行の正しい者は無かつた。『英雄色を好む』の旗印で押し通した。王道の根幹たる價値のある夫婦の道に忠實な人は殆ど見當らない。天下の達道の一つなる一夫一婦の彝倫を辨へて、修身齊家の德によつて治國平天下の鴻業を志した者は一人も思ひ出せないのである。唯だ德川幕府を潰して王政を復古した形式的政治に參加したまでゝあつた。

彼等は自ら維新の元勳を以て任じて得意當るべからずてあつたが、德川時代に行はれた儒教の精神的政治の方は殆ど忘れて居た。德を好まずして色を好んて、尙ほ且つ王道は立派に行はれると誤解して居た。彼等は常に蓄妾を行つて夫婦の道を没滅して居た。その上に彼等は國家の政事を處理するに花柳の巷に入つて、待合茶屋て行つて居た。其處て彼等は藝妓を弄んて『英雄色を好む』を發揮して居た。常に左右に藝妓を侍らせ、酒を飲み、歌を謳ひ、淫佚遊蕩の間に政事を論ずるのが彼等の習慣てあつた。卽ち儒教の最も憎む所の好色を以て日常の生活を爲し、酒池肉林を以て長夜の宴を爲して居た。卽ち桀紂の好むところを好み、文武周公の好むところを嫌つて居た。而も口ては治國天平下を唱へて、行ては身を修めず家を齊へなかつた。この矛盾とその病毒とは遂に滔々として明治大正の後繼政治家の殆ど大半に遺傳して、治國平天下を知つて修身齊家を知らず、好色を知つて好德を知らぬ閥政治家の一群を生じた。政治は立憲代議政治となり、立法あり司法あり行政ありて、文物燦然として泰西のそれと馳騁するに足るやうに思つて居るのであるが、扨て肝腎要な精神的德育を遺漏して居た。殊に爾來專制政治後に馴れて政治と云へばお上の明君賢臣から出る御法度によつて行動するのが百姓の本義だと解し切つて居た人民に參政權が與へられたのであるから、儒教の修養のない有權者共は王道も大學の道も知らぬが佛て、容易に利權を食されて有象無象を選擧するの結果を招來した。又た儒教の修養のない被選擧權者はこれも王道も大學の道も知らぬが佛て、市井の匹夫や齊東野人が權謀術數を用ゐて候補者となり議員となり、朋黨比周して政權の簒奪を行ひ、德望人格の一切を失つても高官となり官貴を一身に收めることを以て能とするやうになつた。延いて明治維新の元勳の行動を倣ねて英雄を氣取り、好色に耽り、妾を蓄へ、藝娼妓を弄び、妾宅と待合茶屋と議事堂と官衙との間を自動車て往復することを以て業をする連中を續出するに至つた。それは上は大臣宰相より下は百姓代議士に至るまて皆さうなのてあるから、政治や法律を學んて未來の大政治家を以て任ずる學生の末に至るまてその風に馴染んて、修德を怠つて好色に勉むる者が夥しいのてある。隨つて醜業婦の跋扈して花柳界の繁昌することは必定の成行てある。

今日の政治家の殆ど大半は花柳の巷に出入して藝妓を弄んて居ることは天下周知の事柄てある。中には藝妓を妻とする者もあり、妾とする者もあり、待合茶屋を開業して居る者もあり。彼等は政治を議するにも花柳の巷に入り、仕事の成功を慰勞するにも花柳の巷に入り、官命て出張しても花柳の巷に入り、地方を遊說しても花柳の巷に入り、人を歡待するに

も花柳の巷に入り、御用商人から賄賂を貰ふにも花柳の巷に入り、酒色の間に政治的生活を營んで居る。隨つて醜業婦は彼等の唯一の政治的侶伴であつて、醜業婦なしには政治は到底行はれるものでは無いと解して居るよりも、寧ろ一日でも藝妓の顔を見なければ政務の能率が上らないのを如何にせんと歎ずる向きが多いのである。

これに由つて觀れば、今日の日本政治家の大半に依つて考へられて居る政治なるものは、君子の顰蹙するものであつて實に好德政治を覆き違へた好色政治になつて居る。『吾れ未だ德を好むこと色を好むが如き者を見ず。』とは、今日の日本の政治家の身の上を判じた豫言のやうに聞える。『寡人疾あり、寡人色を好む』とは梁の惠王の事では無くて、今日の日本政治家が己が持病を批評した言に該當して居る。君子に三つの戒あり、女色を愼むことはその第一戒であるに拘はらず、日本の政治家の大半には權力の爭奪と利得の貪婪とが付物な上に、白髮の老翁が好色の疾に取附かれて居るのだから、三戒共これを犯して人格を喪失し、人倫王道を蔑にして尙ほ且つ治國平天下を夢想して居るのである。斯樣な次第であるからして、現代の日本政治家の政治論なるものは、當ての知れぬものよりも君子の鼻摘になるものである。試に彼等に政治とは何ぞやと問ふたならば、國際條約によつて外交を處理することだとか、六法全書に照して立法司法行政を運用することだとか言つて答へるだらうと思ふ。そしてその處理や運用は修身好德によつて爲すのでは無く、好色亂淫の間に爲し得るものだと斷ずるに躊躇しないだらうと思はれる。彼等の態度から推せば、政治は道德では無く、勿論夫婦の道や貞操とは全く別問題だと考へて居るだらうと思はれる。身の行が如何に惡くとも、家庭が如何に紊亂して居ても、君子から見れば鼻摘の小人であつても、治國平天下の行爲はそれ自體で獨立して居る別働隊だと解して居るかも知れない。遊廓の主人が市會議員となり、待合の亭主が國會議員となり、藝妓の旦那が大臣宰相となつて居るのだから、曲りなりにもさう考へて居なくては思想の纏りが附かない事だと思はれる。これが實に日本の政治家を禍する最大原因であつて、彼等の德望人格を失墜して政治的能力を低下する所以である。基督敎と六法全書の併用によつて進む歐米政治家に比して非常な見劣りがして、內治は勿論、共に外交を談じ、正義を論ずる資格の無いことを浩歎ざるを得ない點である。

四　藝娼妓廢止の政治的暗礁

儒敎の根本精神から見れば、男女夫婦の道は天下の達道であつて、王道の一端である。君子は德を好んで色を愼み、一夫一婦を人道の常倫として、一夫多妻や一妻多夫や亂婚を絕滅することが仁義の理想であり、公正の期待する所である。古來の明君や賢臣や儒者はこれを實現せんことを願望したのである。又た一家の貞婦や烈婦は常にこれに贊成して祈願して居たのである。けれども、暴君や亂臣や愚民はこれに戻つて好色の奴となつて居たのである。明君や賢臣の現はれた時には、藝娼妓は韜晦して鳴りを鎭め、遊野郞は遠慮して足を入れず、花柳の巷は火の消えたやうになつて居たのである。

然るに暴君や亂臣の多い時には藝娼妓は跋扈して大臣宰相を擒にし、遊野郎は發展してこれに耽溺し、花柳の巷は不夜城を呈したのである。日本の現在社會を見るに、藝娼妓は明に大臣宰相を擒にして居る。遊野郎は發展してこれに耽溺して居る。花柳の巷は不夜城を呈して居る。政治家と藝娼妓とは切つても切れぬ腐れ緣によつて、十重二十重に結び付けられて居る。政治家は好德を廢しても好色を廢することの出來ぬ經綸になつて居る。一夫一婦の王道倫理に反しても、藝娼妓は無くてならぬ財産に算へられて居る。縱令、貞操を賣買すれば正義に反する行爲であつても、當面の問題としては止むを得ざる必要事として默認することになつて居る。歐米の政治家は基督教の男女道德觀によつて、一夫一婦を人倫と心得てこれを危害する一切の障碍を驅除せんことを希望して居る。爾來、貞操を賣買することは正義に反し、公正の德を失し、これを政治上より見る時は博愛の精神に戻り、個人の自由を迫害する奴隷制度であると解して、公娼の廢止を斷行したのである。然るに今日の日本政治家はこれを儒教や基督教の上から云爲する知識を持合はせないのであるから、單に六法全書の上から見て敢て不都合のないものと感じて居るのである。如何にこれを道德上から講義して聞かせても、彼等の耳には自覺するの能力が無いのである。これは平素花柳界に出入して淫聲に耳が聾して、謂ゆる良心の痲痺した形になつて居るのであるから、一寸處分に困る厄介な問題である。

現在の日本の政治家の中で公娼の廢止を主張し、藝妓の撲滅を提唱して居る志操の堅固なる國士は、皆な儒教か基督教に深く這入つて政治道德の眞髓を捕捉した人々で、男女道德や貞操の政治的意義に就て自覺徹底して居る先覺者である。吾々は現代の如く腐敗せる日本の好色政治家の中に、尙ほ未だ正義の滅びざることを立證するに足る斯樣な好德政治家の健在することを知つて、意を强うする者である。然るに此等の先覺政治家の名論卓說も、日比谷の議事堂では餘興に出した活辯の値打ぐらゐにしか思はれぬかも知れない。一場のお笑草として一蹴されるに外ならないかも知れない。道德の精神なき六法全書の番人から見れば、公娼は散娼を一箇所に籠き溜めた社會衞生の良策であり、遊廓は貸座敷營業に外ならないかも知れないが、自分は散娼して居る待合茶屋に入り浸つて藝妓を弄んで居ては、折角聲明した良策も自らこれを打ち壞して、法網を潛つて女色を漁る泥棒盤と云ふものにならぬか。

斯樣にして道德の觀念のない政事家には男女の道德の觀念がなく、男女道德の觀念のない政治家には貞操の觀念が無いのである。藝娼妓の廢止は到底彼等の頭では割り出せる案件でも無く、假に理解し得る問題では無い。待合遊廓の撲滅は彼等の品行狀態では斷行し得る筋合のものでは無い。これは吾々廓淸の徒に取つては政治的な一大暗礁である。基督者の泰西諸國では良心に恥ぢて先を爭つて此奴隸制度を廢して了つても、儒教を忘れて人倫の橫道に外れた現在の日本政治家の德育程度では、これを政治上の罪惡であると考へるやうな良心の持主になる迄には可成り時間の距りがありさうに見える。罪惡で一切を堅めて居る小人に君子の道を說いて、眞理の

實行を迫ることは難中の難にも思はれる。大酒家に禁酒を逼るよりも、遊野郎としての政治家に貞操を勸めることは餘ほど骨の折れる事である。併し乍ら吾々はこれを强要するの手を緩めてはならない。これを誘掖扶導して人格の覺醒を俟たなければならない。政治家の不貞操は男女道德の規則通り鼓を鳴らしてこれを責め、斷々乎としてその非を詰らなけばならない。單にこれを新聞や雜誌の埋草てひやかしが如き不眞面目な手段を採つて居てはならない。その罪惡を糺彈して、政治的不信任を突き付けて悔心させなければならない。飽くまでもこれを鞭撻して、好色の心を好德の心に轉換させ正義の憎む奴隷制度を廢止させなければならない。彼等は容易にこれを理解しなくとも、實行しなくとも、彼等の賤劣なる貞操觀念に對して消毒濟となれば結構である、吾々廓清の徒は藝娼妓廢止の卽時成功を期待して居る者では無い、日本政治家の腐つた貞操觀念を男女道德によつて洗滌して、その病源を驅除することによつて一般民衆に對する傳染を防衞すれば滿足なのである。病毒にして遂に根絕されゝば、遊廓や待合の崩潰することは卽日に行はれることを豫見する者である。要は唯だ日本政治家の貞操觀念を改造するの一事に存するのである。

古代婆羅門教徒結婚式

結婚せんとする男子は波羅門又は長老を媒酌人として女子の家に遣はす。媒酌人は女子の家に入りて西面して坐し新郞の姓を告げて婚儀を求むれは家人は東面して挨拶し女子の意中を聞いて諾否を答へる。承諾すれは花、米、果物、金等を盛りたる器を出して媒酌人と家族とは之を靈て咒文を唱へ、終つて之を女子の頭上に置く。これは婚約の成立を宣告する儀式である。

結婚當日となれは、新婦は夕方より香水を以てその頭を洗ひ新衣を着け、聖火の側に坐してアグニ、ソーマ等の十一神を供養し、又四名若しくは八名の幸運なる婦人を餐應てし舞踏せしめ式前祭を行ひて新郞の入來を待つ。適當の時期至るや新郞は沐浴し新衣を着し若き幸福なる數名の婦人に伴はれて新婦の家に至り、先づ新婦に衣服を與へて梨倶吠陀十卷八十五詩の短句數種を唱へる。更に新婦を聖火の後に坐せしめて神に供物を捧げること三四回、この時新父の父は「汝の舅父に對して女王たれ」の句を唱へて刀の尖頭を新婦の頂上に擬す。再ひ歸る勿れの意味である。次ぎに新郞は右手を以て女の右手を握り「我今幸福の爲めに汝の手を握る」と唱へまた「こは我れなりそは汝なり、そは汝なりこは我れなり、天は我、地は汝、汝はリチなり、我はサーマンなり。斯の如く汝は我に忠實なれ」と宣誓する。之より又新郞は新婦を立たしめて司祭者の定め置きたる石の所に伴ひ行き「來れ石を踏め、石の如く堅固なれ」と唱へてその右足を以て之を踏ましめる。終つて夫婦相伴つて聖火を三周すれは新婦は聖火に米を投じて「願くは我等が親族に幸福を特ち來たさんことを。願くは我等が夫の命長からんことを」と唱へる。之れより夫妻相伴つて東北こ七步行してこゝに夫婦の固めが成就するのである。

斯くて新婦は夫に供はれて車に同乘し二疋の白牛に牽かれて夫の家に趣き、そして夫の家に着して後相當の儀式がある。重なるは良家の子息を借りて新婦の膝に置きて將來の子孫繁榮を祈ることゝ、夫妻相共に北斗星を仰いて愛情の變動せざるべきを誓ふことゝ、夫妻共に聖火に仕へ諸神を祭り將來の幸運を祈ること等である。但し結婚後三日間若しくは十二日間は必ず同衾を避けて土間に眠られはならぬ規定で、その間に棒を横たへ置へ習慣であるらしい。恐らく乾闥婆などの好色神の障害を恐れた爲めてあらうけれども畢竟するに古代民族に於ける所謂タブー（禁秘、禁止）の一種である。

物價調節問題と海外發展

山脇玄

□無意味なる調節宣傳

物價調節問題は數年來新聞に雜誌に又識者の間に於て盛んに論議されつゝあつたに關らず、今日尚物價調節又は節約の聲を聞くは甚だ不可思議なる現象と云はなければならぬ。

實際今日の日本程物價の高い國は世界に二つないと云うてもよい程である。瑞穗の國を誇る日本人は先頃來米國より米を遙々送つて來たと聞いて何を感じたであらうか、しかもその價格の如きも三十五錢內外であるを知る時に、我が國民が餘りに物價問題に關して無關心であり、不徹底なるを證據立てるものではないであらうか。我が國特有のものと自認して居た米は云はずもがな傘を支那より、下駄を獨逸より、アイスクリーム、木材を米國より輸入するに至りたるは何たる皮肉なる現象であらうか。米國より橫濱への運賃より、橫濱から鵠沼への運賃が高價なりとて驚ろく如きは最早や古い事である。このまゝに進むならば恐らく或人の皮肉くつた樣に妻も下女も米國から輸入する方が安價になるかも知れない。

かくの如き珍現象を來たせるは取りも直さず爲政者の無見識、無誠意と國民自身が眞面目に物價問題の爲めに努力しなかつた爲めであると云ふ事を證據立てるものである。然るに歐米各國に於いては戰爭中より物價引き下げ問題に付いて眞面目に研究して、それ〴〵見るべき成績を上げて居る。殊に米國の如きは戰時中よりこの問題の爲めに努力したのみならず、戰後の十九、二十年に渡る十ヶ月許りの間に於いて、戰前の價格に物價を引き下げたのである。その爲めには彼の有名なるニューヨークのバラメーカー（これは二千萬圓位のデパートメント、ストーアである）は卒先して商品を卽座に二割を引き下げて同業者とその値で取引することを拒絕したのみならず。その爲めに客を得る事の出來ない小賣商人から、一週百萬弗を限度として物品を買ひ上げたのである。されば それに刺擊せられて他の商店も續々と二割乃至三割五分の値下げを斷行したのである。それ許りではない銀行は贅澤品の製造家には資本の融通を拒絕し、反對に必要品の製造者にはどし〳〵貸付けをし、小學校でも節約の宣傳をやり貯金を薦め集りたる金は品物を製造する爲めに融通されたのである。かくの如く官民一致して物價引き下げの爲めに努力して遂ひに戰前の物價に迄引き下げたのである。

然るに我が日本はどうであるか。爲政者は效果のあるべくもない調節令を出して責任を盡せるかの如き態度を取り。商人は價格を下げたるが如く裝うてその實粗製品を顧客に渡す

事にのみ腐心するに於いては何年の歳月を費し、幾ら何の調査會を設くるもその效果の見るべきものはあり得ないと斷言出來るのである。世には先頃内閣の名に於いて發表された調節令に對して有るは無きに優ると評したものもあるが、私はあの如き效果なく、不徹底なるものは各自の一時的氣休めに過ぎずして及つて眞の物價調節の精神よりせば無きは有るに優ると斷言しても過言でないと思ふのである。

□生活必要品官營

さらば如何にしてこの高騰の限りを盡した物價を調節する事が出來るか。私は第一に生活必要品の官營であると思ふ。勿論現在我々が連想するが如き利益の爲めの官營を云ふのではない。私の云ふのは直接原生産者より供給されて直ちに各個人に供給するを云ふのである。生産者より我々の手に入るまでには問屋仲買小賣商人の手を經て來るのであつて、その間各商人は各自に五分乃至三割の利益を得て居るのである。故にもしこれを官營にして運送費手數料として五分を政府の手に收むるとするも、我々は物品に依りては優に半額乃至それ以上安價に日用品を手に入れる事が出來るのである。然るにもし或る原生産業者の如く製造品を安價に供給するを拒む場合には政府は直接その生産に與つてもよいと思ふ。かくの如くして徹底的に調節法を行はゞ決して物價の値下げはさして六ケ敷はない。

□不正利得の防禦

併しこの方法は現在の日本に於いて到底不可能ならば、第二の方法としては不正利得を拒ぐ事である。それには原生産者より商人の手に轉ずる毎に何れ丈けの利益を彼等が收得するかを精密に調査して、少しでも不當利得をして居たものには嚴罰を課する法律を設ける必要がある。佛蘭西では日用品によりて不當の利益を得たものに對しては死刑を必要とした位である。けれどもこれは法律だけで效果を上げる事は望まれない。やはり官民一致して努力せねばならない。現在の樣に爲政者は爲政者でやり、商人は商人で己れの都合のみに奔走し、人民は政府がどうかするであらうと待つて居るやうでは到底何事も望み得られない。やはり官民一致して物價調節の爲めに徹底的に努力するのでなければ、遂ひには米のみならず味噌や醬油に到るまで外國より輸入せねばならなくなるであらう。我々は日本國民として國產を買ふてきてあるが、經濟生活をして居る以上四十三四錢の米よりは三十五錢の米國米を買はねばならない結果になるのである。

現在日本には物價調節令なる傳家の寶刀があるけれどもそれは何の用をもなして居ない。丁度戰前獨逸の憲法中にある大臣彈劾の箇條の如くあつても要をなさないのである。それはなぜであるか社會は活物であつて日進月歩して居るのに法規は何時も社會から後れて死物となつて居るからである。ことに變化の烈しい經濟界の問題を取扱ふに經驗もなく、抱負もない人々が集つて造つた法律が死物となるは當然の事で少しも怪しむに足らない。法律にのみよつて事をなさんとする如きは實に愚の至りである。

□海外發展策

されど我々は更らに日本國民の將來に付いて考ふる時に、この日用品官營や不當利得防止のみにて安心が出來得るかどうか。私は今日の情態が永く續くに於いては悲しむべき結果を來らすであらうと信ずる。歐洲大戰中開拓した南洋支那印度に於ける製作品の販路は今や歐米品によりて奪はれつゝある。それのみならず國內に於ける製造工業も次第に壓迫せられて來た。獨逸の回復が案外速かなので染料などはどし〳〵輸入せられた爲めに內地の染料會社にして倒壞するものが多くなつて來たのみならず、內地の製造工業に於いても安價な品が輸入されるので、大打擊を蒙つて居る會社が少くない。從つてその結果失業者が多くなり、不安が增して來る。これは經費節約などの如きさして效力のない宣傳によつて解決さるべき問題ではない。節約とか調節とかの消極的な方法に依つてするよりは、もつと積極的方法によつて解決せねばならぬ。それは何であるか。取りも直さず海外發展乃至海外貿易である。貿易と云うても歐米を云ふのではない先づ我が國に於いて製造の出來る品物の需用國たる印度、支那、ロシヤへ向つてである。けれども單に內地で出來るものを輸出するのみでは甚だ心細い次第である。一例を申せば石炭の如きももし今日の割合で使用して行けば、內地產のものは五十ヶ年後には皆無となる計算である。かくては安心して大事業が出來ない。それには材料の豐富な生活費の低廉なる支那、或はシベリヤに大製造所を設けるのが得策である。かくすることによりて始めて安價なる製作品を顧客國なる支那、印度、或はロシヤに供給する事が出來る。それに付けても必要なるは隣邦諸國と親善關係を結ぶ事である。現在の如く相反目して行くならば日本が經濟的に破產すると同じく、支那も滅ぶるより外はない。

されどかくの如き事業は個人の力にては到底不可能な場合が多い故に、爲政者の助力が必要である。卽ち爲政者と人民とが一致共力して海外發展の爲めに盡さねばならない。然るに爲政者のする處を視るに恰も日雇人夫の如く當座間に合せにのみ始終して、少しも將來の事を謀らない。これは何によるか彼等は人民の眞の心に問はずに或る特殊なる人々の鼻息にのみ注意して居るからである。現內閣の如く超然內閣を標榜して居るものでも、物價調節令に於いて日用品に對し鐵道の運賃を少しく値下げしたにも掛らず。反つて重要なる海上の運賃に關しては知らぬものゝ如くであつたのは何を意味するであらうか。

以上の事を顧るに付けても國民は爲政者のみに信賴せず。國民の幸福の爲めに官民一致して徹底的に努力せねばならない。日本人は日本魂を口にする。けれどもかうした社會的な國民の將來に關する重大事件に對して何故に日本魂の本質を發揮して一致團結する事が出來ないのであらうか。我々は利己的な日本魂から國民的社會的な日本魂に轉じて、將來の日本の國民的安全の爲めに海外發展の大策を建てゝ官民一致共力し萬難を排して飛躍する事を希望するものである。

（文責在記者）

廢娼運動と禁酒事業

靈南坂教會牧師　小崎弘道

△誇るべき世界一の數字と△
△恥づべき世界一の醜事實△

聖書馬太傳十八章十節に『爾曹この小子の一人をも輕視なかれ我なんぢらに告ん彼等が天の使者は天にありて天に在す吾父の面を常に觀ばなり』とあるが、吾々は實に小子の一人をも大事にし、之を尊ぶ心掛けがなくてはならぬ。偖私の一つの道樂とも云ふべきは統計的數字を樂しむことてある。頭の重苦しき時に統計の數字を見るならば、其の重苦しき頭も癒え一つの慰めと力を與へらるゝのてある。抑世界各國中何れの國が數の上に於て多いかと申すならば、概して米國が第一てあり英國が之に次ぐのてある。大藏省の最近の調査に依るならば、米國の富は七千億圓、英國が三千六百億圓、佛國三千億圓、獨國千六百六十億圓てあり、日本は尙ほ數ヶ國を隔てたる下位にあつて僅かに八百六十億圓てある。農産物、畜産物、鑛山物なども、米國が第一多額の數字に上つてゐるけれども、日本はとても比較にならぬ程の少數てある。日本は銅などは豊富だと申すけれども米國の十分の一にも及ばぬ。又英國の領土は世界第一て一千四百萬方哩て、地球の全土五千五百五十萬方哩に比するならば四分の一强に當るのてある。

若し此英の領土に埃及や亞英利加の新領土やメソポタミヤ、ハレスヤ等大戰の結果英國の委任統治になつたものを併はすれば殆ど地球の三分の一となるてあらうと思ふ。

又船舶は英國が第一て、凡そ千五百萬噸以上てあり、世界の三分の一以上、約半分近いものを占有して居る。又貿易は英が第一てあつたけれども、今は米が第一てある。又一個人の富は、之を大藏省の最近調査に依るならば、英が第一て一人に付七千九百圓、米が六千五百七十八圓、佛が四千八百二十三圓、獨が二千七百二十六圓てある。日本はズット伊太利白耳義、和蘭の次てあつて一千五百二十九圓てある。然し日本には忌むべく憂ふべき方面に於て世界一のものが澤山ある。卽ち第一は離婚てある。此離婚は民法發布後著しく減じて來た。一時は結婚三の內一が離婚てあつたが、最近では減じて八の一と云ふことになつた。米國は離婚の多い國てあるがそれても一千の內三十ばかりてある。他の歐洲諸國は千の內僅かに五ッか六ッに過ぎぬ。その次に監獄の囚人の如きも日本が第一てある。又肺病其の他の結核患者の多き事が世界第一て一ヶ年十萬人の死亡者がある。其の他肺炎や腸結核て死亡した者が二十萬人以上てある。そして二十三四歲の血氣盛りの者が其の死亡者の多數を占めて居る、英國は四十歲以上の者が肺病其の他の結核性病氣に罹る者が多いが日本は反對

である。

△二十餘萬の日本醜業婦跋扈▽
△と絶大なる酒害の惡影響▽

次に日本は花柳病に罹る者の多いことは世界第一である。醜業婦も亦世界第一であるが、全體の數が不精確であるが、娼妓が四萬八千二百六十二人で藝妓は五萬九千百六十一人である。卽ち近年娼妓が減じて藝妓が著しく增すと云ふ傾向である。そして外に酌婦が七八萬人ある、之に海外の醜業婦二萬人を加ふれば合計二十一萬人となるのである。內務省の社會局に居た牧野虎次君は先頃此醜業婦の合計人員二十五萬人と計算したのであるが、少々誇過ぎる感がある。卽ち二十二三萬人が公平であらうと思ふ。一方高等女學校の生徒數を擧ぐれば十一萬八千人であるから、此醜業婦全體の半數に當るのである。此醜業婦殊に娼妓のことは一刻も看過すことの出來ない問題である。今日に於て根本的に廓淸すべきものが澤山あるけれども、最も緊急を要するものは娼妓の問題である。此の問題は寢ても起きても忘れてはならぬ。

酒に就ては幾分社會が注意して來た。卽ち泥醉者が少くなり、殊に社會の表面に立つてゐる公人は澤山飲まぬ樣になつて來た。是は少年禁酒法が一つの助けとなつてゐる。此酒は實に百藥の長どころでなく、百毒の長である。當人ばかりでなく子々孫々迄その害毒を及ぼすのである。道德上より見るも酒の爲めにどれだけ多く墮落するが知れない。そして大きく擴げて考ふるならば酒飲みが犯罪者の大多數を占めて居る。然るに米國に於ては先年酒場と醜業婦のあつた所が、最近に行つて見るのに禁酒法實施のために掃き淸められたる如くなつて居つて、其の場所には奇麗な雜貨店其の他の店が並んで居る。又酒は人間を墮落せしむるのみならず生産上の能率に大關係がある。工場の能率などは酒を飲まぬ者と飲む者では大變の違ひである。又商業上の取引なども待合其の他の不潔なる場所に於て酒宴の下に決定せらるゝと云ふことは實に馬鹿々々しい。是等のことは誠に慨歎すべきに至りである。

△米國禁酒斷行の由來と▽
△英國醜業婦取締法沿革▽

米國が思ひ切つて禁酒を斷行したことは實に偉いことである。一方より考ふるならば、之が爲めに國庫十億圓近い稅金が取れなくなる。又造酒の資本七十億弗乃至百億弗の巨額が殆んど無駄になつたのである。又中流以上の人々は飲酒の習慣があるので、其の慾望を制する物質上の損害がある。それらを數へ來るならば實に非常のことである。然るに何うして此禁酒令が斷行せられたかと申すなば、酒の害が絶大のものであつて、個人自身に與ふる害、一家に與ふる害、社會に及ぼす害、工場能率の減退等凡有害毒を深刻痛切に考へたからである。日本では少年の禁酒法ですらも國民一般に理解が少くない。それ故に一般の人々には此禁酒問題は却々困難である。

又醜業婦殊に公娼であるが、日本に於て貞操の觀念が明確しないのは國家が公娼を許して居るからである。それ故に國家の敎育に何等の權威がない。或る論者は公娼を許して制限

するは止むを得ない事であると云ふのであるが、是は以ての外のことである。石川五右衛門は、「濱の眞砂は盡くるとも世に盜人の種は盡きまじ」と申したが、さりとて制限を置て此盜賊を公許して公盜となしたらば如何。賭博も之と同じ。賭博場を公許して公賭博となしたならば、如何に廣く又深く害毒を流すこととなるかは、必ずや思ひ半ばに過ぐるものがある。公娼もそれと同一理である。制限云々は以ての外のことである。又默過することとの出來ぬことは人身賣買のことである。公娼の如きは一種の形式に由つて賣買にあらざるが如く裝はれてあるけれども、實際の事實は確かに人身賣買である。英國は此醜業婦廢止に關し大部分目的を達した。西暦千九百十二年英國の醜業に關する法律案が國會を通過したのであるが、其の法律の條文中には、醜業に關する罪人、誘拐者は嫌疑者を以て直ちに捕縛することが出來ることになつてゐる。又その醜業婦に關係する犯罪人に對する刑罰中之に對しては笞刑を用ゆる事に定められた。笞刑は七十年も前に廢して居つた酷刑である。英國の國會にて民法案の議事のあつた節ロバルト、セシルは熱心な信者で、堂々たる政治家であるが、彼は此醜業に關する犯罪者に就ては彼等は弱き婦人を地獄に陷れ之を利用して金錢を儲けるものなれば人間ては。い、獸類である。獸類に對し笞刑を用るは當然の事であるな此法律案は頗る苛酷の如くなるも已むを得ぬ事と申して之を通過せしめたのである。濠洲ても人身賣買の犯罪に對しては十年以上の重禁錮に處するの法律あれば犯罪の數は割合に少いのである。

△宗教的信念努力を以て成就せ△
△らるべき禁酒事業と廢娼運動▽

我が國公娼妓問題は三四十年前以來の議論てある。群馬縣は明治二十二年公娼を廢止して其の結果非常に良好てあるが其後日本全體としての運動は殆んど絶えて仕舞つた。是は畢竟基督教會の信仰が衰えて來たと申さねばならぬ。此問題は單に社會問題として努力するだけては無效てある。先年廓清會が此公娼問題を提げて運動したが、一向輿論の反響がない。又社會一般の人々は此公娼の惡弊害毒に關し、徹底的に理解し痛感してゐない者が多い。又若し此公娼制度に依つて花柳病の感染を防ぐ事が出來ると思ふならば以ての外の間違てある。現に實際檢黴に從事してゐる醫者は檢黴は子供だましてあつて少しの效力あるものてないと云つて居る。それ故に公娼のある所は花柳病の製造場てあると申して差支い。

吾々は此悲慘なる公娼の惡制度に束縛せらるゝ同胞姉妹を座視するに忍びぬのてあるから、吾々は口や筆や手足が以て眞劍に熱誠に働ねはならぬ。聖書馬太傳十八章十一節以下に『それ人の子は亡たる者を救はん爲に來れり。爾曹いかに意ふや人もし百匹の羊あらんに其一匹まよはゞ九十九を山に置ゆきて迷し一を尋ざる乎。若たづねて之に遇ば我まことに爾曹に告ん迷ざる九十九の者よりも尙その一を喜ん。是の如くこの小子の一人の亡るは天に在す爾曹が父の旨に非ず。』とある。教會にも色々の事業はあるが、實に是等の禁酒事業と廢娼運動は最も力を盡すべき緊急痛切なる事業てある。己れ一人のみのことを考ふるは決して神の御心てない願はくば御互に此二問題のために奮勵一番大いに努力したいと思ふのてある。

約と愛の相互關係

三輪田元道

近頃到る處で節約宣傳が流行して居るが、これは別に新らしい現象ではない。歷史は何時も繰り返へさるゝものである、例へば我歷史を見ても德川三代將軍の時に、節約宣傳が行はれた。それは永い間の戰爭の後に泰平となり、人心も安堵になつたので、自然遊惰に流れんとする傾向があるので、それを防ぐ爲めてあつた。そして幾度も節約令が布かれた。今日の節約宣傳も決して偶然の問題ではなくて、歷史的に繰り返したに過ぎない。

今回世界大戰の巷にあつた歐洲諸國は、必要上から極端に節約を實行して居るが、同じく大戰に加はつても日本と米國とは事情を異にして居る。それは兩國共に損害はなく、否直接戰爭の苦しみを味ふ程ではなかつたのみならず、兩國共所謂成金國になつたので、自然遊惰奢侈に流るゝ傾向が生じて來た、今之を防がん爲めに起つた運動が節約デーとか節約講演等となつた。

兎も角も節約宣傳節約の實行は眞によい事である。けれども事物は極端に趨れば反つて害を生ずるものである。節約も自己の贅澤を省くは善事なれども、それが爲めに人道を無視し、人情を缺くがごとき事があつてはならない。殊にその結果が商業を衰廢させ、工業の發達を障げとなる樣の事があつてはならない。嘗つて我國が德川時代に絹物を禁じた爲め桑の樹を片端から切り倒した所が明治維新後世界的日本となつたにつき、假に蠶業を奬勵して今日の國富を爲したのである。もし德川時代に蠶業征伐をしなかつたならば、我國力は今日よりも三倍以上になつたであらう。

實に過ぎたるは尙ほ及ばざるが如く、極端な節約は文化を破壞し、產業を衰退せしむる故に注意しなければならない問題である。

節約は經濟の問題と云ふよりも、一種の道德問題である。節約の理想とする所は自己の無駄を省いて、これを社會の利益や幸福の爲めに善用すると云ふ博愛の精神が必要である。則ち節約は愛の爲めでなければならない。故に節約は自己の爲めにのみするのでなく他人と共同の生活を營まん爲めにするのである。利己主義を止めて他愛主義を行ふのが眞の節約である。

在來のやうに、自分の財產は勝手にしてもよいと稱して、自分の山なり、川なりを不生產的に使ふ事は實に不道德な行爲である。たとへ所有權を持つて居ても貴重な天地間の事物を自己の娛樂の爲めにのみ使用するのは不合理であると言はねばならぬ。

自己のものは何んでも彼でも自己の勝手に處分し得るといふのは古い思想で、近代の思想は所有權は認めると共に、所有の義務をも負ひ自己のものとて無益に使ひ、必要以外に使用するは不都合であると認める樣になつて來た。それは凡ての天惠は社會共同の幸福の爲めに存するものであるから、節約の背後には博愛がなければならない。

人の人格はその財產を如何に使用するかによつて知る事が出來得ると共に、如何に節約するかによつてその之をトする事が出來得る。西洋の諺にマネー イズ キヤラクターと云ふ言葉があるが、金の持方によつてその人物を測ることが出來る。卽ち人を知らんと欲せば先づその人の金に對する態度を見るに限るのである。

西鄕隆盛は嘗つて子孫の爲めに美田を買はず、と云うたが大久保利通が一寸した家を建てたのを見て、今日天下國家の事を忘れて我家を建てるのは不都合だと責めた。現代の社會を大西鄕に見せたならば果して何んといふてあらう。

節約問題と關連して云はねばならないものは住宅問題である。今日住宅の不足で困つて居る人がどれ丈け多いか知れないが、無益に一人で二軒或は三軒以上も費して居るものがどれ丈けあるか知れない。例へば妾宅の如き東京を中心として隣接町村にどれ丈けあるか知れない。日本橋の濱町、京橋の一部、山の手、大森など正確なる數を知る事が出來ないが三千軒や五千軒はあらうと思ふ。それ等は皆相應な住宅を無益に專有して居るのみならず。下女を付け下男を付けて無意味な不生產的な生活をして居る。もしこれを整理したならば住宅難などは卽時に救はれると思ふ。それのみならずこの妾と云ふものゝ存在する爲めに、どれ丈け家庭の平和が亂されて居るか知れない。これを廢止したならばどれ丈け家庭の平和より延いて人類の平和を來たらしむるか知れないのである。

更らに云はねばならない事は、人は凡て何か一つの職業に從事する必要がある。貴族、富豪或は遊惰の心より無職の人がどれ丈けあるか知れない。恐らく東京丈けでも何十萬とあるかも知れないが職のないと云ふ事は不道德な事である。否其人自身に取つても無意味な事である。立派な家には何の用もない食客などが何人となく遊んで居るが、これ等も實に不可思議な事である。

或る人が日本就中東京市は十年後に恩給で行き詰ると云うて居るが、これには相當の理由があらう。恩給を受けるもの必ずしも老人片輪のみではない。それ等の人ももつと利用する幾多の方法があらうと思ふ。軍縮の結果働らき盛りの人が恩給を受けて休職になつて居るから、何か職を與ふる機會を設けてやる必要がある。さうすれば必ずしも都會に止まつて恩給で生活して行く必要がなくなるから自然と住宅難がなくなる。

次ぎに考へなければならないのは、働らき盛りの女性がエネルギーを不生產的に使つて居る事である。かの遊廓に居る娼妓や市中に散在する藝者などは二十代から三十代までの働らき盛りの女性である。もしこれ等の女性が生產的に働らくならば日本の國力が盛んになるは必然である。然るに世には節約を口にして居ながら遊惰な生活の爲めに設けられて居る

大厦高樓に對して、廢止の必要も感ぜずに居るとは何たる矛盾であらう。甚だしきに至つては土地繁榮策として此等も必要であるなどゝ云ふものや、永い間の習慣であるから急に之を廢止するわけにも行かないなどゝ唱ふるものあるに至りては、沙汰の限りである。

公娼廢止や私娼撲滅に對しては最早理論の問題ではなくて實行の問題であるが、こゝにもう一つ節約の必要なるはレストラント又は宿屋の女中である。それ等も實に貴き人間の力を不生產的に用ゐられて居る實例である。先頃關西地方を旅行して或る旅館に宿つた。その宿屋には十一組計りの客があつた。そして女中は五六人居るのだから、二つの室を一人で受持つて居る割合である。然るに食事を時間通りに持つて來ないので、何う云ふ理由かと聞くと他の客の晩酌の相手をして居たので遲くなつたのだと云ふ譯であつた。斯くの如く一人の客が女中を自分のみの專有物の如く心得て、傍若無人の行爲をするのは惡しき風俗である。されば今後は之に改善を加へてお客全部が一つの食堂で食事するやうになれば十五人や二十人はボーイ一人で澤山で宿料は安くなる道理である。

節約は社會共同でやらなければならない。共同の精神が盛んになれば從つて獨占とか專有とかの思想が薄くなる、英語で云ふソリダリテイの心があれば人類は今よりも一層幸福な生活が營まれ得ると思ふ。

要するに節約は無論大賛成であるが貧民を苦しめ勞働者を困らせる樣な事のないやう實行したいものである。我々の立場としては目の當り妾宅の廢止、公娼制度の撤廢、無用なる女性勞働の節約でなければならない。かうして共同の心即ち愛の心が背後に動いて居て始めて眞の約の意味が貴いのである。故に約と愛とは到底切り離すことは出來ない。であるから今日以後の節約は他人の人格を向上せしめ、人類の進步發達を助ける爲めの手段でなければならない。更らに別の言葉を使ふならば節約は人の心を高尚にし、相互に愉快な、のんびりした生活を味はん爲め總て積極的目的を有して之を實行せねばならぬ。

驚くべき日本の嫁入費用

嫁入仕度が娘をもつ親の頭を惱ますことは、並大抵の事ではない。一人の女の子が出來ると「五千圓損なした」と云ふ咳辭はよく近頃の中流家庭で聞く事柄で、實際五千圓やそこらの仕度金がなければ人並でなくなつたやうです。これなどは如何に日本人が空虚な生活を送つて居るかを證據立てるよい材料であります。無い金を無理して娘が結婚後直接幸福になるものでもないものへ、多くの費用を掛けるとは何たる無分別な心掛けであらう。

處て各國の樣子はどうでせう

△年收一萬圓の場合

英吉利	八分
佛蘭西	一割
米國	二割
伊太利	四割
西班牙	五割
日本	二十割
支那	三十割

△年收二千圓の場合

英吉利	一割
佛蘭西	一割
米國	二割
伊太利	四割
西班牙	五割
日本	二十五割
支那	三十割

以上によつて見ると、日本は英國より高きこと約二十倍で、いかに無駄な結婚費の爲めに苦しめらるゝかゞ解ります。これも改善せねばならないものゝ一つです。

勞働青年の教育に就て

有馬頼寧

社會事業の眞髓たるべき青年勞働者教育の必要と其の意義

私共の營んで居る小さな青年勞働者の會合がある、その青年の一人の物語りに『或る日煙草屋の店先に一人の躄（いざり）が十五錢を出して敷島を呉れないかと申した。處が、煙草屋の主人は敷島はないと答へた。躄は店に敷島の陳列してあるの見て敷島があるではないかと詰つた。主人は傲然として設令敷島が店にあつても、お金はお前のものである如く煙草は私のものであるから賣れぬと斷つた。其處へ役人が通り掛り兩方の話を聞き、結局煙草屋に賛成して外へ連れて行つた。躄はぶつ〳〵云つて他の店へ行つて買うた』と云ふ話があつた。然し熟々考ふるに、煙草を賣ることは自己の生活の資を得るためであるけれども、一面需用者の需用を充たす便宜を與へなければならぬ。それ故に煙草屋の言は無理である。煙草小賣業者は自己の利益のためのみでなく、他人の便益のために此營業を許可せられて居ることを知らねばならぬ。大きな眼から見れば兩方の便益を與ふることになるのである。又個人が他人の爲めに働いても、他人や社會より受くる恩惠の方が多いのである。それ故に吾々は自分のために働く上に餘裕があるならば、人のために働くべきである。そして社會事業が根本的に徹底する所の教育、卽ち青年勞働者に對する教育が必要であると思ふ。

第一にお斷りする。本當に勞働に從事せぬ者は勞働者を敎へてはならぬと思ふ。それ故に私等は青年勞働者を教育し得るとは思はぬ。唯教育を熱烈に要求する人等に其の機會を與へ便宜を與ふることは差支ないのみならず、大いに必要であると思ふのである。青年勞働者の教育は何故に特に必要であるか。文部省の統計に因れば、學齡兒童の九十八乃至九十九パーセントは義務教育を受けてゐることになつて居る。然るに本所、深川、淺草、下谷の各方面には實際通學せざる者は尠くない。それから東京市内全體として普通ならば通學出來ぬ兒童を收容して特殊教育を施してゐる學校が十二三あり、收容人員は約一萬人あるのである。卽ち之等の兒童は義務教育に要する費用を支拂ふことの出來ぬ家庭の人々である。若し其の特殊的施設がなかつたならば或は勉學し得ないであらう。現に郡部には南千住、日暮里、三河島等に此特殊的設備なきため、八歲乃至十三歲の兒童で不就學者が相當にある。

勞働組合の發達程度と一致すべき青年勞働者の教育程度

此特殊學校に通學する兒童は、多くは晝の一日中、半日は

は勞働し半日は學校の教育を受くると云ふことになるが、時には此通學と勞働とが晝夜に渉ると云ふことになるのも已むを得ざる事柄てある。そして勉學と勞働とを兩立せしむる結果、相當の賃金を得せしめ、家庭生活の援助をなさしむるのてある。殊に五六年生になれば、大概修學以前の時間には電報配達をなし、又は職工となるのてある。そしてそれ以上の學校へ行く者は學級中の一人か二人位のものてある。商工補習學校の如きは誠に微々たるものてある。其の他特殊的の中學校は殆んどない。專門學校的のものは猶更ない。特殊的小學以上中學程度の學校を强ひて尋ぬるならば、總同盟の學校や私の經營して居る學校、又は千住の學校、芝山內の勞學院及遠藤博士の活版の學校がある位のものてある。此靑年勞働者の學校は如何なる程度標準に依つて必要てあるかと申すならば、勞働組合發達の程度標準に伴うて此中學以上の教育が必要てある。英國の勞働黨が設立經營したるオックスフォード、ラスキン、カネジーは、西歷千八百九十九年に設立した。そして勞働黨がその役員となつたのてある。然しその後モー少し色彩をはつきりしたいと云ふ考を以て別に設立した。そして勞働者教育協會が凡有方面に於て大學と連絡を取つたのてある。

日本は英國の如く勞働組合も發達せないのは當然てあるが、前にも申す通り此勞働組合發達の程度に伴うて教育も發達せなければならぬ。然らざれば眞の健全なる發達をなすことは出來ぬ。日本ても大學と連絡することを希望する人が多くなつて來た。又一方に於て各勞働組合が聯合する合議制のものを設けるには、その中心人物がなければならぬ。然るに今迄の日本勞働組合には相當の人物なきため、勞働階級以外の人々が中心となつて居る。英國にもさう云ふ歷史がある。それ故に賀川豊彦君が申さるるのに、『今迄私共が勞働者の中心となつたのてあるが、併し勞働者の人々が眞の中心となる樣になれば、吾々は喜んて脫ける』と。本當に勞働の社會に活躍するには、相當の教育を受くるために學校へ入る必要がある。又勞働組合の進步發達するために必要てある。工場管理の場合にも教育が必要てある。又能率の上に於ても教育ある者が勞働に從事すれば、能率が上がるのてある。

勞働組合の役員養成の學校と自由に考究すべき獨立的の學校

爰に考ふべきは、工場の管理の經營者が其の職工に教育を與ふるには、何うしても其の工場の利益便宜となるべき偏頗の教育をする嫌がある。それ故に他の工場に移らんとする時、種々なる困難があるので、何うしても自然と束縛せらるるのてある。又或る工場には賃金の外、白米を廉價に供給するのてあるが、其の工場の職工が申すのに『此工場には白米廉賣其の他情實的の關係があるので、他の工場に移らんとする時頗る苦しい。白米其の他の廉價供給は勞働者に取つて幸福なるが如くてあるけれども、自然と工場に結び付けらるるので、却つて不幸てある』と。實際勞働者にはモー少し多くの賃金を與へて、勞働者の進退其の他の行動を自由にせねばならぬ。又勞働者には二通りの學校、即ち勞働團體の學校と私共の樣な學校を必要とする。勞働團體の學校は勞働組合の役員を作る目的のために必要てある。然し之は多少の束縛があるので他の一つの教育機關が必要てある。即ち勞働靑年の頭通りに自由に考ふる學校が必要てある。此學校は勞働者自身のためてある。經營者のことを論ずる必要はない。社會に出てぶつつかる。そして自分て頭を作るために其の頭を活用するのてある。私共は此靑年の人々に對し、單に便宜を與へるのてあつて何等束縛もなく義理もない。若し此事に關し經營者たる吾々が恩惠を頭に置くが如きことがあるならば、何等價値なき事業となるのてある。

勞働者教育に反對する人がある。それは理窟を云うて困ると云ふことてある。併し自分に疾ましき所がなければ理窟は恐るゝに足らぬ。又或る人は教育を受くれば亂暴せぬから必要であると申すのてある。然し之も誤解てある。肝要なる出

發點が違ふ。要するに教育は勞働者自らが要求するから必要なのである。或る時工場に關係ある役人が私の學校に參り、勞働青年に對し『英國勞働のストライキが秩序整然として如何にもチャンとしてゐるのは、要するに教育あり知識があるからである。日本の勞働運働をする人は大いに注意せねばならぬ』と話した。處が、メッキ工場に働く勞働青年の一人が立ち上つて、稍激昂したる面色を以て役人に申すのに『今のお話は結構の話であるが、只今英國と日本を比して單に日本を惡いと云はれたのは當を得ぬと思ふ。吾々を無教育にする罪は誰れが負ふべきであるか、吾々日本の勞働者は餘程の克已心と元氣がなければ、勞働した上で勉學することは六つヶ敷い。少ない賃金を以て父母兄弟の生活費を支へなければならぬ。吾々は世の所謂苦學生より困難である。又行くべ學校がないてないか。それ故に先づ吾々に時間の餘裕と、賃金の高きものと、學校の設備とを與へよ』と。私は此職工の眞劍なる態度と衷心からの要求とを看取して、同情の心と力強き感じに打たれたのである。

青年勞働者苦學の實情と努力すべき教育上のデモクラシー

斯くの如く私の學校へ來て居る者は熱烈なる教育の要求者である。私が普通選擧に就て質問したことがある。その時學生が口を揃へて政治のデモクラシーよりも教育のデモクラシーが必要であると申した。又職工の一人が申すのに『普通選擧權を得ても正當に之を行使し得るか疑問である。それ故に選擧權を與ふると同時に教育を與へて貰はねば眞に正しく有效に行使することが出來ぬ』と。教育を受け得ると否とは月謝を拂へるか何うかの問題である。若し能力の鋭敏なる者も金錢のために學校へ行くことが出來ぬとするならば、獨り其人の不幸のみならず國家の不幸である。私共は常に貧家の立身談を聞き無量の同情と感慨に打たるゝのである。過日教育行政調査會に於て或る委員が『地方に居る者は概して教育を受くるに不便なる運命に支配せらるゝ云々』と云つたのであるけれども、是は誠に教育の意義に對し矛盾せる變な話である。教育は何れの地に在つても受け得る樣に圖らねばならぬ。

或る青年は代々木から印刷局へ通勤し、夜私の學校へ通うて再び代々木迄歸るのであつた。私は彼れが餘りに身神を勞する結果身體を害せんことを恐れ、方法を變更する樣に勸告したので、今は私の學校へ參つて居らぬ。實際私の學校にも呼吸病のために死亡する人が多くある。芝山内の勞學院の創立者阿部と申す慶應義塾を出た人は、一つの理想を持つて居る。其の理想は面白い。即ち工場と學校を一つにすることである。今はまだ現實となつてならぬが、何れ之を現實にする日があると思ふ。

又私の處の或る學生が言うた。大學生が向島の堤上に傲然として濶歩してゐるのが癪に障る。彼等大學生はボートレースで悠々半日を送るのである、吾々は一日十數時間産業の爲めに汗を流して働くのである。そして學問の競爭をするのは宛然跣足と下駄又は竹馬で競爭するが如きものである』と。要するに金のある、なしに依つて勞働青年が社會から教育上不公平に冷刻に取扱はるゝことを憤慨したのである。吾々は何うか社會全體として出來るだけ學校教育を均等にし、殊に貧者や勞働階級の人々に普及する樣に奮勵努力したいと思ふのである。(講演大要文責在記者)

自治記念日所感

法學博士 岡實

都市としての東京は、實際に於て未成品であると思ふ。恰も血管に譬ふべき交通機關は、常に結滯の狀況であつて、電車は滿員〳〵で躁いでゐる。また動脈とも見るべき水道は、屢〻不良に陷つて水騷動を起し、井戸を堀つて辛うじて供給するやうな有樣である。靜脈とも見るべき下水は、何時になつても不完全であつて、恰度、動脈あつて靜脈なき狀態である。瓦斯にしても、電氣にしても、或は食糧にしても、甚だ不完全極るもので、其他總べてが未成品であるのである。

私は物質的方面から觀るばかりでなく精神的方面から見ても缺陷だらけであると思ふ。一體東京は自分のものであるといふことを知らぬ市民が多い。從つて市長や議員の勝手放題にさせて置くやうな狀態で、自分の考ひと云ふものが少しもない。そして種々なる運動が行はれてゐながら、階級打破といふやうな運動は更に行はれて居ない。

市民の多くはまた投票といふことに無頓着である。國民教育を終つた者で、投票に理解のあるものは甚だ稀である。多くの市民は要するに自分の立場を知らない、恰も往昔の戸長に對するやうな眼で市長や市會を見てゐる。それは甚だ無自覺極ることだと思ふ。市民に自覺がない位であるから、議員の如きは實に甚だしい。その議員の狀況は怎麼なものであるか、私は云ふだけ無用だと思ふ。市會に議員選擧の場合に於て、果して自治制に基いてやつてゐるか怎うか、これまた私の喋々を要せずして何人も首肯さるゝことゝ思ふ。

市會はいつでも積極的の考へなくして徒らに消極的削減論を唱へてゐる。そしてまた常に感情論に走つてゐる。遠大なる組織を立て積極的の案を出したことがないではないか。玆に於て、私は嚮に云つたやうに市民の撰擧、道路、衛生等は勿論、東京市の總べてが未成品であると思ふのである。近來藝術的文化的現代都市などゝ云ふけれとも、那邊にそんな色彩があるだらうか、然らば其不完全未成品の原因はどこにあるか、又たそれは何人の責任であるかといふと、決して市長や議員たちの責任ではない。寧ろ市民自身の責任であると云はねばならぬ。然らばそれを怎うすればよいか、之れ次きに來るべき問題である、で私は其要點を闡明して、諸君に相談して見たい。私の思ふ所では、精神的方面から指導するか、物質的方面より進行するか、要するにその兩方面から指導啓發せねばならぬのである。

元來都市の組織なるものは、云ふまでもなく歐洲から摸倣したものと思ふ。歐洲の所謂自由都市なるものは、智識階級商工業から成立し、互に協力一致をなし

て立派に出來てゐるのである。彼等は自分と都市とは離るべからざる關係を持つて居るといふ觀念が强い。そして都市は自由の精神が發する理想上の標的となるが故に、市民は道路を見ること自分の家の廊下を見るが如く、公園を逍遙するにしても、自分の庭園を眺める心持で見てゐる。市役所を見ること自分の室の如く思つてゐる。彼等は都市を愛し他に對して、自分の都市の自慢をしてゐる。歐洲諸國は斯くの如くにして共同生活を營んでゐるのである。そして彼等は自治といふことを能く理解してゐる。デモクラシーの歷史、自由の歷史を能く知つてゐる。時勢の上に建てられたるデモクラシーでなければならぬといふことを、歷史の上に知つてゐる。また彼等は共同團體といふ事を特別によく敎へ込んでゐる。子供の時から、小學校に於て、また社會に於て徹底的に普及されてゐるのである。運動會にしても、海水浴にしても、或は林間學校にしても、我國では敎師が附いて行つて監督するのであるが、彼等は左樣でない、彼等同輩の中より警視總監を撰び、また種々なる役員を設ける。そして若し彼等のうちに於て、規律を守らなかつたり、惡るいことをするものがあれば嚮に撰ばれたる役員たちが制裁を加へるといつたやうな工合である。これが歐洲に於ける今日の陪審制度の濫觴をなしてゐる。また交通道德を理解する爲には、彼等は小供の頃から、十字街の巷にたつて、「進め」「止れ」の練習をやつてゐるのである。

然るに我日本では、そうした敎育を少しも受けてゐないのである。されば私はこの意味に於て、我東京市民に對し、精神的方面より自治の魂を入れなければならぬと思ふ。我國で歷史と云へば古のことのみを敎へて、近代になればなるほど解らないやうな敎へかたである。されば東洋の歷史は無論、西洋歷史を能く敎なければならぬ。歐洲の五百年間かゝつたデモクラシーを其儘採つて東京に殖えんとするが如きは、賢明なる措置でない、デモクラシーの衣だけを東京に移して、其着馴れない衣を初から着こなすことは出來ぬてはないか、私は一市民として、此の有樣に憤慨し、市民其ものを攻擊せんとしたが、市民はそれを避けるだけの貧弱な力さい持つて居ない。それで私は彼等に敎育と力とを與へよと絕叫せずには居られない。以上は主として精神的方面に就てゞあるが、尙ほ此のほかに緊要なことがある。近來東京には特別市制調査會なるものが出來てゐるやうだが、更らに各區に之れを設けて精密なる調査を遂げる必要がある。尙ほ接續町村にも之を及ぼして、議會撰擧の場合などには優秀なる人物を撰擇して、有象無象や惡るい人間を撰ぶやうなことがあつてはならぬのである。次ぎに物質的には、吾人の生命を脅威するものを避けたいのである。塵埃の如きは大に避けなければならぬ。死なゝいやうに生命の保全を圖るべきは云ふまでもない、差當り電車、下水、これ等をなほして貰ひたい。私は尙ほ市長や議員に向つて、生活の便宜問題、之れを謀つて貰ひたい、卽ち食糧、石炭其他生活に必要なるもの、便宜問題である。所謂藝術的文化都市は、それからの問題である。衣食足つて禮節を知るといふことがあるではないか。

東京に於て自治制度の施行されたのは明治二十七年であつて、其當時の人口は

八十萬であつた。それを百五十萬にする計劃で市區改制例をはじめたのであるが三十年後の今日では既に二百七十萬の人口を持つてゐる。それに澁谷や中野のやうに有機的に隣接せる接續町村を合せると、約三百萬になる。この接續町村は如何する積りであるか、東京灣を中心として、一時間で往復の出來るところを總括して、第二東京とすれば、優に三百四五十萬となる。この大東京が三十年經ては七百萬となる、恰どロンドンと同じになる譯けである。それらを東京市に編入して大東京としたならば、怎麼すればよいか、八十萬のときに百五十萬計劃をたてゝから三十年後の今日では二百四十萬になつてゐる。よく考へて見ると都市計劃は明治元年から企圖されてゐた。しかし實行といふことになると、何時でも經費削減〳〵て今日に及んでゐる。

されは今後に於ける大東京は過去に於てなしたるが如き、消極的手遲な方法に依つてはならない。議論はこの位にしてをくが尙ほ經費の點を一言して括りをつけやうと思ふ。後藤市長は八億圓計畫を出してゐるが私の考へては、市民の負擔を輕からしめる爲め、出來るだけ剩餘金を出すがよいと思ふ。そして優秀なる議員を撰び大に市の發展策を講じなければならぬと思ふ。今日の紀念日は所謂自治の紀念日たるにとゞまらず、今後前述の方針によつて出發せんとする。其出發の紀念日とすべきであると私は思ふのである。

（講演大要文責在記者）

姥櫻の賣春婦

岡山東西遊廓娼妓の年齡調

紅燈の下に絃歌湧く肉の觀樂境、岡山市内東西兩中島遊廓に於ける肉を鬻ぐ娼妓は何れも表面の華やかさに較べて、其の裏面の淺ましさ、醜くさはお話にならぬものがある。『前借金』と『稼業の契約』とに縛られて、厭な悲しい其の日〳〵を送るものが可なりある。時には自由廢業をやつて抱主を困らせるものもあるが亦一方には斯うした稼業を別段嫌忌せうともせず、空々に過ごして行く者もある。併し何れにしても一日も早く此苦界から脱け出したいと云ふ希望は同じて、年期が明いて素人となりて身も心も縮り行く女は朋輩から羨望せられる。斯ふした中にも拔き差しならぬ破目に陥り三十六歳と云ふ年嵩の女が猶ほ此の廓に送るものさへある。去る九月九日現在の調査によると、三十六歳の娼妓が西中島に一名と卅二歳が一名ある。而全部の年齡は左表の如くなつてゐる。

年齡	西中島	東中島	合計
三六	一		一
三二	一		一
三〇	三	三	六
二九	三	三	六
二八	五	一四	一九
二七	七	二三	三〇
二六	一一	二四	三五
二五	一二	三五	四七
二四	一三	三五	四八
二三	二二	三九	六一
二二	二四	四七	七一
二一	二六	四六	七二
二〇	二一	三五	五六
一九	一八	二〇	三八
計	一六七	三二四	四九一

斯く西廓に百六十七名、東廓に三百二十四名、總計四百九十一名のものが、日夜淺ましい賤業に從うて居るのは嘆はしい次第てかる。

岩野筒峰寄

▲三十三人の子福者　米國ミゾリー州インデペンデントに住んで居るブルナーといふ男は今年七十七歳てすが、細君の運惡く、第一第二の細君に死に別れ、今は第三人目の細君と同棲して居ますが、非常に子供運がよく、三腹に三十三人を儲けてをります。そして一番の長子は四十三歳、末子が十三歳、これを男女別にすると女二十人、男十三人となります。

兒童虐待防止事業最初の試み

東京出獄人保護所主管　原　胤昭

I　前科十五犯の兇賊大和小僧も虐待兒の一人
II　余が此事業を試みた動機、虎に噛まれた少年
III　全市選拔最優良生の一人も救はれた虐待兒
IV　救世軍に似合しい社會事業

I　前科十五犯の兇賊大和小僧も虐待兒の一人

今回救世軍が兒童虐待防止運動を始められたことは、時代の要求に應じたるものであつて、誠に喜ばしき結構のお企てである。その實際の取扱方に關し、自分が嘗て經驗したる事柄を申陳べて皆樣の御參考に供したいと思ふ。多分今より一週間後に、「時事新報」に如何なる標題を以て掲載せらるゝか判明らぬか『前科十五犯の兇賊大和小僧の經歴』とでも題せらるゝてあらう。此大和小僧は本名を川淵音松と申す出獄人てあつて、二週間程前に時事新報社から私の許へ此人物の保護を依賴して來たのてある。今迄處刑せられた犯罪が十五犯てある。最後の處刑十八年の服役中二回特赦の恩典に預つて、減刑となり大年八年六月出獄したのだ。其の後京都の摘畑に働いて居る時不思議の緣て堅氣て親切な婦人と結婚したのてある。

此の先三池監獄放免の當時知己の依託を受けて、或る事業を計畫する爲めに些少なる現金と衣類を借りて奔走したのてあるが思ふ樣に參らず其の金を費消し盡し、託されたことも出來ないことになつた此の間違ひの爲めに、その依託人より橫領罪の告訴を受け、奈良地方裁判所の檢事局に於て取調べを受けた。檢事が彼れの前科十五犯もあることを聽き「貴樣は惡黨だなア、酷い奴だなア」と言うたので、彼れは今回の罪は輕いけれども前科が澤山あるから、處刑は必ず最長の二十年てあると覺悟し、家に歸つて妻に其の次第を話し、共に悲歎に因んだのてある。妻が悲しみ乍らも襟を正ふして申すのに「お前は二回迄も御上樣の恩典に預り、此後は決して罪を犯しませぬと誓つたに拘はらず、今回斯くの如きことになつたのは、御上樣に對し、誠に相濟まぬ譯てあるから、先づ桃山御陵と明治神宮に參拜し、次に二重橋に參り赤心からお詫せよ」と斯く熱心に勸めたのてある。彼れも成る程と肯づき、第一に桃山御陵に參拜してお詫を申上げたる上、上京して明治神宮に參拜し、次に二重橋を拜して同じくお詫を申上げたのてある。

II　余が此事業を試みた動機、虎に噛まれた憐れな少年

彼れはそれから銀座通りをぶら〳〵步いて居る內に、ふと此銀座に日本の大新聞時事新報社のあることを思ひ出し、同社へ立寄つて彼れの衷情より溢れ出づる懺悔話をしたのてある。時事新報社でも之を諒とし、私の所へ紹介して保護を依

賴し來たのである。私は其の實情を聽いて同情し、直ちに奈良裁判所檢事局へその實情及び保護方法を詳記して申告した處が、其の後間もなく起訴猶豫處分になつたのである。そこで彼れは鄕里に歸り不日妻と共に上京して、私の處へ參る筈である。

それで彼の成立を調べて見ると彼れは六歲の時父を亡ひ、其の後母と生別して種々なる冷刻の境遇に置かれ、其後には香具師興行師に預けられて不良少年となり、終に斯かる大惡漢となつたのである。換言すれば彼れが幼少の時より眞の人間味、家庭味を味ふことの出來なかつた事が、彼れをして大犯罪人とならしめた大原因である。然るに彼れは妻の眞の愛情に感動し、且は彼の女の健氣なる態度と淸き人情味に感激して、其の罪を心の奧底より悔ひ改めたのである。

私は基督教の信念により長い年月の間出獄人を世話した。今迄も前科の五犯十犯十何犯と云ふ者を數百人保護した、何れも強盜、殺人、放火其の他凡有恐るべき罪を犯した者である。そして其の恐るべき犯罪に至る經路を調べて見るならば、年齡五六歲より十一、二歲迄の時非常に虐待せられて、其の心がひねくれたそれが大原因となつてゐるのが、多いことを發見するのである。夫故に虐待兒對大罪惡人、防止運動と保護事業とは多年私の頭を離れない問題であつたのだ。それで私が先年兒童虐待防止の運動を起すに至つたのは、一人の少年が香具師に虐待せられたのみならず、觀覽物の虎に嚙まれた悲慘事を見て非常に同情愛憐の心を起したからである。そして當時兒童を虐待から救ひ上げたのが百十數人あつた。記錄に存したものが八十四人ある。これは皆な近傍の人々より通知して吳れたので之を救助することが出來たのである。先日虐殺せられた淺草の初ちやんは、被害數ヶ月前より虐待を受けて居たと云ふことであるから、若し其の時に於て誰か警察か其他の慈善團體にでも通知して吳れる人があつたならば、救助することが出來たらうと思ふのである。誠に可愛さうなことをした。右の樣な譯であるから、今後皆樣の御近所に若し兒童を虐待する樣な不都合の人があつたならば、郵稅先拂の封書なり端書なり、又は電話なりて救世軍へお知らせ下さる樣に致したい。其の通知をなさるお方の氏名は必らずしも知らせる必要はない。

私が救助した八十四人の內に五歲十人七歲九人七歲十九人八歲三人其他で七歲が十九人で一番多くあつた。

これは七ッ八ッの惡戲盛りて父母や上長に反抗する年頃であるためである。金を附けてやられて死ねがしにされたのや繼母に虐められた子供が多くあつた。又通知の種別を申すならば、直按私の處へ知らせて來たのが四十五件、それが電話十六件、書面十六件、來話十三件であつた。又通知者中名前を匿したのが二十名て、顯はしたのが二十五名であつた。吾々御互は社會の一員である、斯んな事も成るべく吾々の手で處理したい。警察事故となる前に、隣保相助吾々御互が適當なる處置をせねばならぬのである。

III　全市選拔最優良生の一人も救はれた虐待兒

深川富川局の消印ある無名の手紙が舞込んで來た。

その筆跡を見れば浦ら若い十六七歲の

少女の筆になつたものと推察された。その要領は「斯く〳〵の處に園ちやんと云ふ八百屋の子供がある。家の奥の椽側に始終泣いてゐるから助けてやつて下さい」と云ふことである。私は直ぐに行つて近所の人々にそれとなく聞いて見ると、全く虐待されてゐる樣子であるから、其の八百屋を訪問し主人夫婦に向ひ、園ちやんは御病氣のさうですがお氣の毒ですねえと申した。處が主人は誠に困つた奴で閉口して居なすと答へた。そして私を醫者と思つたらしい。私が主人に其の子供を見たいと申した處が、直くに呼んで呉れた。見ると四五歳の幼兒にしか見えないが八ッだと身體は疲せこけ大小便は垂れ流しして脱腸で立てない。腰が拔けてるとでも云つて宜いか、逋匐し居ます。キヨロ〳〵と私を見て居るのである。

私は主人に態々來訪した譯を話し、醫者の手に掛けて病氣を癒す樣にと勸めた。彼れは何うか何分宜しく賴むと申した。元來此子供は主人の不品行の結果、外に出來た子供であるために、細君は嫉妬心からさう云ふ風に放任し且つ苦痛を與へて平然としてゐるのであることが判明つた。そこで私は此子供を引取つて三井病院へ入れて治療を受けさせてやつたのである。數十日の後にして全快しました。處で病院の看護婦が熱心な基督信者で、非常に深切であつたので、病氣全快して退院と云ふことになつた處で、園ちやんは退院することがいやだと申して愛して呉れた看護婦の手を離れぬのである。漸く之をすかしなだめて私の宅迄連れて來たのであつた。

其後私の家庭でも園チャンに同情を表して愛してやつた。暫くたつて後に豐橋育兒院へ交涉し、同人を育養して貰ふことになつた。さて今度は私の家庭から離れない。之には頗る困つた。私の末女みよ子と申てピヤノを彈しましたのかあつた。之が誠に愛情の深いものであつて殊に園チャンを可愛がつた。園チャンも之をピヤの姉さん〳〵と慕ふて音樂學校の教授に出て居ると、其歸宅を待ちこがれて居るのでした。他の者の手では動きませんからピヤの姉さんが一緒に行くと申して、とうとう娘は東京驛まで園チャンを脊負うて乘り、汽車の中で私が抱き取つて娘を歸しだと云ふ如うな譯てした。眞に可哀相てはありませんか、園チャンは生れて初めて吾々基督者の手に抱かれて愛と云ふ溫みを知つたのである。

今は立派に成長しました。園チャンの學業成績は特に良い。每期優等であつた。豐橋市全校の優良生の撰拔で四五人中に竝んで市長より褒賞を受けた。卒業後今では蠶糸講習生となつて居ます。

愉快てはありませんか。捨てておけば大泥坊にも成る可憐兒が、救つてやれば優良撰拔生となる。苦難多しとする社會事業にも、亦斯んな歡樂があるのであります。

IV 救世軍に似合しい社會事業

救世軍は活動が特徵である凡ての方面に於て熱心に活潑に運動せらるゝから、此兒童虐待防止運動の如きも必ずや着々と其の效果を奏せらるゝこと、確信する。そこで皆樣と此尊ひ運動を助くるために、通知の勞を執つて下さい一寸知らせて下されば結構なのである。

或る時私の方へ、金をつけて兒童を貰つた人が其の兒童を死ねかしにと虐待することを其の近傍の婦人より通知して來

た。其の手紙は漸と讀み得る位の拙筆てあるが、その晩にも虐殺の恐れがあるとの意味に考いてあつたので、私は直ちに現場を探偵して直ぐ警察へ知らせた。警察でも時を移さず臨檢して警戒し、一面其の子供の實親を呼出して之を引取らせたので、幸に無事なることを得た。二三日の後に私は此の現場を見舞いましたれば、同じ長家のおかみさん達が群り來て、口々に歡聲を揚げ、而て聞ますと、加害者は警察の留置場から出て來たら直ぐ其日に何處へか引越して往つた。と其退き際に云つてた詞に、警察も中々馬鹿にならない。俺たちが此處へ引越して來て未だ十日とも經たないのに、直く感づいて來やアがつた、と警察の力に驚いて居たさうだ、が實は此の愚痴を聞き、今亦私の傍に群つてるおかみさんの中に、之を通知した鐵釘流の手紙を書いた人が居て、心の中て喜んて呉れてるのてあつたのです。

只だ機敏てなくつては不可ぬ。これは救世軍の働に最も似合しい働と思つて私は大に贊助する譯なのてす。(講演大要一九二二、八、一八)

十二社三業設置問題

府下淀橋町十二社に、藝者屋、待合、料理店の三業設置請願の件を町會が決議して警視廳へ請願した、と云ふ極めて眉唾事件が先日突發した。明治神宮の參道附近に醜業屋を設けんとするも、餘りに突飛な思ひ付きてあるが、教育費を捻出する手段として醜職業の上前を刎ねんとするは如何に無分別なる町會と雖も、餘りに他を假りたる仕方てある、町會は秘密集會?を開いて、外間に漏れざる内に陰謀を實現せんとしたのである。

彼等は切りに町費の過重を述べて居る、が三業よりの上前は恐らく町の收入となるより多く或る種の人々の懐中に入るのてはないてあらうか。そして淀橋町は三業の上前を取るてふ惡名を買うた代償として、醜惡なる風俗を益々子弟に感染させるに過ぎないのてある。彼等は三業を設置する事によりて風俗を善化させる事が出來得ると云うて居る。世にこれ程人を愚にした言葉があり得やうか。

我等はこの不正義、僞辨、醜惡なる運動を征服せんが爲めに七日夜柏木有隣園に於て布施辰治、高島米峯、山室軍平諸氏を勞して演說會を開いて町民の奮起を促した。尙來る十九日には青年會館に於て反對演說會を開いて當局及び淀橋町會の猛省を促さんとする計畫てある。參考の爲めに珍無類の請願書を示せば左の通りてある。

二業組合設置ノ件ニ付許可願

東京市外各隣接町村ノ一般傾向ニ漏レズ我淀橋町モ近年異常ナル發展ヲ來タシ今日ニ在テハ戸數一萬餘人口五萬ヲ越ユルニ立至リ候此傾向ハ淀橋町ガ市外住宅地トシテ格好ナル地理關係ヲ有スルコト、交通機關ノ次第ニ發達候トニヨリテ益々著シカルベキコトハ今更申述ブル迄モ無御座候然ルニ本町ノ財政ハ町勢ノ發達ト共ニ年々膨脹ヲ重ネ來リ候仍テ住民ノ激增ニ隨ヘ就學兒童俄ニ增加致シ教室狹隘ヲ告ゲ本年度ニ於テ町立小學校ニ對シ計二十八教室ノ增築工事ニ着手シ猶且ツ第六小學校ヲ新築致候爲メ臨時費十八萬餘圓ハ起債ニ據ルノ已ムナキ次第ニ有之候其上舊債六萬圓ヲ有シ居リ候而カモ道路下水ノ新設改良ニ年々巨額ノ町費ヲ要シ其ノ本年度經常費豫算金二十七萬圓ヲ越エ居リ候處今又小學校ノ井水飮用ニ不適當ナルヲ以テ水道敷設致度此ノ工業費數萬圓ヲ要スベク候如此ノ急速ナル町勢ノ發達ニ順應致ニハ町財政ノ窮乏ヲ深クスルノミニ御座候殊ニ恐怖時代トモ云フベキ今日經濟界ニアリテ町民生活ノ安定ハ依然トシテ望ミ難ク從來トテモ能力以上ニ町費ヲ負擔シ來リタル町民ニ對シ更ニ以上ノ賦課ヲ爲スコトハ到底堪ヘ難キ所ト考ヘ他ニ出來得ベクバ町財政ノ資源ニ充ツベキ收入ヲ得ンコトヲ講究致シ漸々ニシテ一案ヲ得申候間狀ヲ具シテ左ニ請願致候

本町所在十二社ハ古來著名ナル勝地ニシテ都人士ノ遊園地トシテ知ラレ居リ候然ルニ先年來同地ハ私娼及其他如何ハシキ者ノ出沒ニヨリテ著シク不評ヲ來タシタルト同時ニ地方風紀ハ紊サレ動モスレバ善良ナル風俗ヲモ害セラル、虞ヲ生シ居候故ニ此際同地ニ於ケル本町管理ノ一定地域ニ藝妓業待合業設置ノ御許可ヲ仰ギ其上ニテ之ヲ營業者ニ貸付ケ夫レニ因リテ生ズル附帶税ヲ以テ本町ノ新財源ニ宛テ町費ノ窮乏ヲ救ヒ度幸ニシテ御許可ヲ得候ハヾ一ハ以テ町財政ノ窮乏ヲ救ヒ自治體トシテ爲スベキ教育土木衞生產業及社會的施設ニ對シ益々改善ヲ加ヘ町民ノ生活ヲ安易ナラシメ都市計畫ノ向上ヲ計ルコトヲ得一ハ以テ社會政策上已ムヲ得ザル設備ノ一タル二業設置地ノ區域限定ニヨリテ地方風紀ノ紊亂ヲ防グコトヲ得一擧ニシテ兩得ノ利ヲ見ルベキヲ信シ玆ニ町會ノ決議ヲ經且ツ地主ノ承諾書相添ヘ謹テ請願致候間何卒特別ノ御詮議ニ依リテ御許可相成度此段奉願候也

淀橋町長升本喜衛門

警視總監堀田貫殿

衛生上から観たる公娼問題

家庭衛生新聞社長　吉井錦陵

公娼が人類に必要であるか無いかは別問題として、衛生上の立場から少しく述べる必要があらうと思ふ、生慾上の立場から人間性を解剖すれば最上の快樂は生慾なりと謂ふ、この快樂の中に我々の子孫は繁殖されてゆくのであると、宗教家は子孫を殘す爲めに餘儀なく生殖機能を働かせるのだと謂ひ、一般社會人は快樂の結晶は子供であると謂ひ。いづれにしても人性にこれ程至大の幸福はないと思はれて居るのである。されば如何なる英雄豪傑も宗教家もやはり子供の製造力は持つてをるので各自が立派の事は謂へない筈である。

凡俗の人々は公娼を必要とし、盛んに公娼設置を唱ふてをるので我群馬縣の如きは常に設置論者と廢娼論者の爭闘喧しく遂に我縣のみだけ無いのは他縣に對して誇るに足るのであるが、凡俗間には盛んに公娼を設けなければ私娼は殖へると唱ふてをるものがあるが、實際から申すと公娼を設ければ設ける程私娼が多くなる事は事實であつて我群馬縣の如き私娼や、藝妓、酌婦等の多くあるに尚公娼を設置するのは考へものであつて、公娼を設けたから必ずしも私娼がなくなるかと思ふのは甚だ間違つた事で一層賣春婦の多くなるのである。かゝる事は風教上からも衛生上から視ても、かゝる者の社會存在を極力反對するものである。

人間が生慾を必要とするが故に、かゝる機關が果して必要であるか亦この種の機關を利用するものの果していづれの程度の者か、年齢から見てどの邊の齢の者が最も多いかに就て調べて見るに、公娼を相手にする多くの者は勞働者、下級商人等に限られ、獨身の青年に多くあるかと謂ふに驚く勿れ事實は下級民でなくて反對に上流の人々てその八分までが妻帶者の遊び場所となつてあるから驚かざるを得ないのである。よく老人が齢の若い内は遊びたがると云ふが現今の青年は昔の青年と異なり女に迷ふ程の者は居らぬ樣であるが、絶對に居らぬ譯でもないが一體に眞面目になり來たつた事は甚だ悦ぶべき現象である。では社會生存競爭の劇しいため經濟方面から來たつた自然の結果であるか否かは知らぬが老年の考ふる如く今日の青年が不眞面目で墮落して居るとは限らない、却つて眞面目の者の多い事は事實である。然るに賣春婦を必要とするものは立派に家庭を持ち、妻や子供を有するものが最も多いのである、何と心得違ひの甚だしい事であるまいか、多くの酌婦、藝娼妓の一般が恐るべき花柳病を有してをる事である。是等が傳播する傳染力は甚大なるもので何も知らざる妻に感染ぜしめその内に產れたる子供に白痴、失眼、片輪等の不幸なるものが出來るのである。

我國の一般人の九十九パーセントは花柳病を有せざる者は恐らくないと稱せられてをる亡國病たる恐るべき花柳病が我等の體質を漸次に減退し素質を下落し年々生れ乍らにして死亡する嬰兒の多くな

りつゝある事は統計上見のがすべからざる事柄であつて其七分は流産、半産、生れて三ヶ月以内に死亡するもの丶大部分は多く花柳病に基因する事である。然して花柳病の遺傳的に受けたるものは身體は虚弱にして鬼をもくじく骨格を有する者であつても壯年に至つて死するもの多くこの種より生れたるものには、低脳者、盲唖者、腺病質の多く生れるに至つては花柳病も決して油斷すべきものでないのである。

花柳病中で最も恐るべきものは淋病であつて、一旦この病に罹りたるものは一生不治と謂ふても宜しいので、生きてをる間は體内から病菌の去る事なく、益々繁殖して強烈となり、病菌は身體の蛋白質、肥肪質、人間の活動する最も必要なる部分・機械で申せば油の部分に淋菌が喰込むのであるから關節の部がガク〱して歩行さへも出なくなり、活動期とも稱すべき四十歳内外で多く死亡するものはこの病が原因する事が多い。

我國のみならず世界に於て、この病に對する療法も藥品も發見されて居らないので、只ヨードカリウム或はブロームカリウムの如き定まつた藥品で氣休めしてをるばよりに過てないのであるから、淋病に罹つたら百年目と心得て宜しい、然るに世人は梅毒は恐しいが淋病は恐るべきものでないと氣にも止めぬが夫れは外觀から梅毒は鼻がかけたり何かするので、恐しく思ふのであるが實際から申すと淋病の方が命をとる事が多いのであるから注意すべきである、亦梅毒に對してはサルバル酸(六〇六號注射藥)等の發見に由り大概の梅毒は全治さるゝと申すが如何にサルザル酸と雖も慢性になつたものに對しては少しも效果はないとさへ或學者間には唱へられてをるのである。斯くの如き恐るべき花柳病が個人の遊興の結果その累は妻子に及び、その禍は子々孫々に及ぼすに至つては藝、娼妓は勿論、不完全なる檢梅の公娼等は衞生上の見地から見て國家に由々しき害毒を流すバチルスにして社會上から宜しく撲滅すべきものである。或る衞生學者は「藝妓や酌婦の大部分は花柳病患者である」と云ふ題でこの樣な事を書いたその記事の内容を示すに

(上略)例へ身は美しい絹衣を着、彼等の有する皮膚は如何に紅白にして滑澤あるも其一皮下の肉は腐敗したるに等しき肉體である。彼等は近い將來に於て恐るべき病が現出し、其白い滑澤ある皮膚は腫物と膿のため全部を破壞さる運命は必然の結果である。夫れは恐るべき花柳病である、即ち淋病、軟性下疳、或は梅毒である。惡症の梅毒患者は恰も癩患者に等しく恐るべきものである。強症の淋疾は身體の關節を犯し恰もリウマチス患者、或は半身不隨者の如き類似病者となる、あの美しい絹布に包む白い皮膚に包まる肉の内には、この如き病菌が充滿してゐる云々(下略)

とあつた。この恐るべき花柳病を多くの者に傳染なさしむるに至つては看過し難きものであつて、例へ嚴重なる檢梅ある娼妓にしても病毒を有せざるものは皆無に等しいものばかりで實に恐るべきものである、かゝるが故に是等の者の多く存在する社會は國民の體質を減退なさしめ、禍を永遠に殘す由々しき大問題である。故に何等かの方法を講じて是が撲滅策を計るは目下の急務である。

東北地方賣笑婦情態

木藤冷劍

東北地方の賣笑婦分布情態を本號には掲載する事にした。東北は六縣下に陸軍省の徴兵管轄になつてゐるから此調査も六縣にする。即ち、宮城、福島、山形、秋田、岩手、青森の諸縣てある、先づ宮城縣から見ると。十四ヶ所の遊廓がある が最も多いのは世に「森の都」と稱せらる、仙臺てある仙臺と云へば有名なる伊達家の騷ぎのあつた所て高尾太夫なぞと艶名を謠はれた伊達陸奥守の出た所てあるが全縣から見ると東北地方は少い、本縣は僅かに五十八軒の貸座敷があるのみてある仙臺市に三十三戸宮城郡に五戸牡鹿郡に四戸刈田郡に三戸柴田郡亘理郡、志田郡、栗原郡、各二戸宛の所在て一ヶ所のみのが黒川郡、名取郡、伊具郡、登米郡、加美郡、の五郡てある。登錄や削除の多いのは戸數妓樓の多い丈けに仙臺が第一て娼妓の少いのは黒川郡て貸座敷一ヶ所娼妓三名てある（大正八年には二名てあつた）

全縣合して娼妓四百六十六名あり登錄五十八名削除五十二名登樓人員百六十一萬八千九百四十六名七百九十三萬三百十六圓二十九錢てある。之を藝妓等に見ると仙臺市の百九十五が二百三十三人に增加し酌婦は七十三人が五十八人に減少してゐる。本縣下に藝妓の所在十二ヶ所ある牡鹿郡ては四十六名のが七十名に增加してゐる。

青森縣は十二ヶ所にある青森市旭町に二十二戸あり娼妓百〇八名の外藝妓百五十五名酌婦七十名ある弘前市北横町と壽町にまたがつて一ヶ所あり南津輕郡黒石町には八戸て廿七名の娼妓と藝妓一人酌婦四人ある、三戸郡には小中野村と五戸町三戸町の三ヶ所にあり上北郡には七戸町三本木町、野邊北町、下北郡には田名部町と大港町にあり西津輕郡には鰺ヶ澤町と木造町とにある、之を統計より見ると左の如てある。

郡市別	料理店	飲食店	貸座敷	娼妓	藝妓	酌婦	登樓人員	費消金員
青森市	一〇〇	一三	三	一〇八	一五五	七〇	二九、二一七	三五九、一二四
弘前市	一三〇	一三三	三	一二七	六二	三三	二三、二〇五	四四〇、四四〇
東津輕郡	七	三六	—	—	—	—	—	—
南津輕郡	三三	六五	八	二七	二二	九	五、七一九	二五、六八三
西津輕郡	二五	六〇	二	三五	三五	一四	三、五六七	五二、七八七
北津輕郡	一八	一二	—	—	七二	一六	—	—
三戸郡	三六	三〇	三	三六	九四	三三	三五、六六二	一四四、七八〇
上北郡	四六	三七	四	七五	三五	三三	一、四八五六	三三、八〇四
下北郡	二六	三六	五	二〇	一四	一三	四八八四	一五九八

秋田縣には本會の支部が能代にあつて淺野吉十郎氏がよく活動して居らるゝ情況を時々誌上にて拜見してゐる詳しい調査が手許にないが大正九年末の秋田縣下ては貸座敷七十六戸あつて前年度より三軒增加してゐる大正八年と比較すると左の如くてある。

年別	貸座敷現在	開業	廢業	娼妓登錄數	同削除	現在	登樓人員	費消金員	藝妓	酌婦	料理店	飲食店
八年	七三	一三	一〇	一六三	一五六	一八九	二六四、九三三	二二、一五六	三七五	四八七	三三七	二六〇
九年	七六	四	一	一四〇	一二七	三〇四	一六七、三三三	三一、九六六 同上	四三六	三五〇	三四二	二四〇

之を縣中の最も繁華なる秋田市の情態を見ると秋田遊廓は大正九年末に娼妓八十名登樓人員一萬八千六百五十五人費消金員四萬六千六百三十五圓五十錢に達し登錄數は三十六名削除十八名であつた。前借金の情態を見ると最低同地は百五十圓最高二千六百圓である。遊興税は四十分の一藝妓數百四十四名酌婦五人であつた廢業の種別は妾となり又は娼妓として他に轉廓の者多きとの事である年齡別は自十八至二十二十一人自二十一至二十五年四十二人自二十六至三十年十二人自三十一至三十五年四人出生縣別は秋田縣の六十五名を筆頭とし、青森縣六名山形縣の四名北海道の二名新潟、福島、東京の各一名宛といふ情況であつた。次は福島縣の情況を見ると福島縣には福島市の二十一戸九十五名の娼妓を筆頭として二十ケ所に公娼の所在がある。藝妓は三十八ケ所にある。六百十二名の娼妓が全縣下にあつた。之を統計に現すと左の如くてある。

貸座數		娼妓數	藝妓	酌婦	料理店	飲食店
福島	三	九五	八九	二六	三八	八九
飯坂	七	三一	五六	|	五	一八
桑折	八	三四	六	一	一三	二六
保原	二	一一	二四	一	七	二四
梁川	二	一三	一三	六	一二	三
川俣	三	一七	一三	五	七	三四
二本松	三	一〇	一四	一〇	九	五〇
本宮	三	一九	七	六	三	二七
郡山	三	二二	七九	五〇	六〇	六〇
須賀川	三	一五	四五	〇	四〇	三七
白川	一八	五九	七四	二	四一	六〇
矢吹	二	三	|	|	〇	二
三春	五	三一	二一	一二	八	六
小野新町	三	二二	一三	五五	一一	二三
平	七	六〇	二四一	一九二	六六	二三五
中村	二	一四	三七	五	二	五九
原	二	一八	三八	九	八	六九
若松	一一	六八	一九五	五五	五一	二四九
喜多方	七	二一	六二	二六	三六	一〇一
坂下	三	一二	六二	四六	三二	一一四

大路左の如くてある。比較的各所に散在してゐる。次に岩手縣の情況を見ると盛岡市の一ケ所に十三戸あり六十一名の娼妓を筆頭に十七ケ所ある。全縣を通じて貸座敷九十、二戸娼妓は三百五十四名登錄百七十七名削除百七十一名であつた。藝妓は三百三十九名酌婦は三百五十三名飲食店は二千百九十一戸であつた之は何れも大正九年末の現在である。今盛岡市役所の調査になる婚姻と離婚の情態を見ると婚姻七百三十一件離婚六十九件に達つし養子緣組二百二十六件の離婚三十六件であつた私生兒認知六十八件にして嫡子出生千六百六〇件庶子五十九件私生子百件であつた、死產五十七名之て見ると他に比較して離婚は少いか私生兒の多いやうである死產の少いのは埋葬寺院が市外にあるからとの但書がしてある山形縣の調査は手許にないが警保局の調査によると七百三十一人の娼妓がある、藝妓三百八十六人同雛妓七十五人てあつた。

此調査は今少し精査なるものを掲載する考へなりしもかくては詳しい統計のみ打續いて興味も少く一縣下にて二頁も費しては全國の情態を掲載するには多くの年月を要する故成べく重要なる參考となるべき所のみ揭載して細かい點は省略する事にした。昨年十一月に調査發表以來一年近くになつたが丁度半分位しか揭載かしてない今後又種々なる公娼、私娼を主として出來事や社會施設の報道等の調査をするとまた可成りの月日を要する故に、成べく此調査は早く切りあげる事にする。

今東北地方に於ける賣笑婦の周旋情態

を見るに、

市別	藝娼妓求人	同求職	同就職	營業者
福島市	四三	四一	三九	一二
若松市	二一	二三	一九	一〇
盛岡市	三九二	二八一	二八一	一二
青森市	三七	四六	四一	三三
弘前市	一一四	二四	一三八	三九
米澤市	八	五	五	一八
山形市	七二	七一	七一	三九
秋田市	一四	二九	三八	一八

賣笑婦の周旋情態は市別にして調査したものは前記の通りである全國各府縣別のは七月號に掲載せし故茲には其縣下の拔萃にあらざる市別のを掲載した。

斯くして幾多の年若き婦人が周旋業によつて娼妓となり、藝妓となつて賣られ行くのである、賣られ行く、誠に人世の悲劇である、賣られて後何年か立つて度にして再び借金のない元の身體になつても彼女等の精神は非常に變體て來る、澤田撫松氏は左の如く云うてゐる「殺人、放火などといふ殘忍な罪を犯す者に賣笑婦あがりの女が多いと」――誠に味ふべき事だと思ふ賣笑婦あがりの女が何故殘忍性に富んでゐるかといふと清淨無垢な處女が節操を蹂躪され前途ある身を滅茶々々にされたる精神的變調と賣笑行爲による生理的變化によつて自然に性質が殘忍になるのである尙統計の示す所によると賣笑婦時代の女よりも賣笑婦あがりの女に殘忍性犯罪をなす者が多いこれは年齡の關係にも依るであらうけれども一つは社會の冷血を憤るといふ感じが知らず〱の内にさうした形式になつて現はれて來るとも見られる一體何々の上りといふやうな言葉程冷酷な言葉はない淫賣の上り酌婦の上り女郎の上り藝者の上り何といふ冷酷な言葉であらう。總ての女は賣られた時は平等であるそれが貧乏人の娘と生れたばかりに淫賣となり酌婦となり女郎となり藝者となるのであるいやなるのではない淫賣酌婦女郎、藝者にならねばならぬ運命に陷れられたのである叩き込まれたのである、社會は貧しい家に生れた娘を淫賣　酌婦に女郎に藝者に叩き込んでおき乍ら彼等がそうした苦界から逃れ出やうと跪き足搔いてやつとそこから這ひ上つて來ると酌婦上り淫賣上り女郎の上り藝者のあがりと冷酷極まる言葉を浴せかけて再び元の苦界へ追い返そうとするのである。そうした冷酷にあうて所謂上りの女は冷酷なる社會を怨み呪ひ只さへ殘忍な性質に傾いて居る者が愈〱殘忍な人間となつて飛んでもない罪を犯す者が多いのだからうした事實は歷々と統計の上に現してゐる云々

斯くして見ると最初の第一歩が肝甚てある廢業後の然るべき精神的敎化も必要となるのである。

回遊廓の祝儀を廢して 飲食物代の引下げ

前號には神戸の福原廓で姙娠娼妓の待遇を改善する事を報じてあつたが「神戸新聞」の報ずる所によると港川署は遊廓の營業上にも立入り徹底的に改善の方針て貸座敷の頭上に大英斷を下す事になつたといふ。例へば貸座敷の飲食物の如きは常識では勘定の出來ない箆棒な高價で公然暴利を貪つてゐるが今度は價格を嚴格に制限して飲食物は市價の五割以上を造過せざる事を基本として明かに表超つて揭示し又使用人の遣仲居、妓夫、等は相當給料制度として心付は斷然廢止とし萬一之に反したものは嚴罰に處するといよ更らに現在の公娼制度の上に問題となつてゐる「廻し」をやめて「時間制」にす

る事てこれは人道上棄て置けぬ問題だから一妓一客主義の時間宛に變えるといふのてある。兎に角斯くの如き各地に待遇の改善の勵行を見るは喜ふべき事てある。最早從來の如きやり方は社會も認めず彼等のために奴隷となるものもなくなるのてある。それて近來神戸の娼妓の税金を調へて見ると一等五圓二等になつて四圓てある大正十年には六萬三千四百七十一圓に達し人員千百十四名てあつた。藝者に合すると三十五萬圓になる。

回藝妓の年期契約無效の新判例

茲に又痛快なる新判設が出た即ち九月二十一日の大阪朝日紙の報ずる所によると大阪市西區天保町の漁夫藤井捨吉の娘やす（二十歳）は十五歳の時曾根崎町四丁自大道なめ方へ六年契約て前借金百圓藝妓仕込にやつたそしてやすが稼業て儲けた方は全部抱主に渡し若し勝手に廢業した時には理由の如何を問はず仕込中に要した衣服食費を全部賠償せしめるといふ契約をした、其後やすは一人前になつたが男が出來て姿を隱した、するとやすは稼いだ金を差引いて食料の不足と貸金があるといふて青木米吉といふ者に讓り渡した米吉は藝妓の父母を相手に訴訟したが裁判數回控訴して大阪控訴院で九月二十日敗訴した。判決の理由は「親が未成年者のやすを勝手に藝者に住み込ませ其收益金も本人の意志を問はず抱主の所得とし本人の意志で期限内は廢業が出來ぬといふやうな契約をした事は人の自由を束縛し且つ本人の得たる利益を不法に他に收得せしむる事となり公序良俗に關する法に違反するから當初の契約は無效であると」いふので、「藝妓の年期契約は無效」といふ新しい判決が下つたのである云々。

編輯之後

私は所謂名士を訪問して時に藝娼妓の必要を聞かさる、事がある。その人々の立脚地は何時も害毒の範圍を狹くする爲めに必要であると云ふのてある。その人々にはかゝる職業に沈むものは、或る特殊の人間でゞもあるかの樣な口吻て物語るのである。しかし恐らく藝娼妓とならんが爲めに生れて來たものはないであらう。唯何等かの悲しい事情が道德的に彼等を自殺せしめたのてある。然るにその屍を弄する事を何等不道德なる行爲とも感ぜざるのみならずその存在が社會的に止むを得ざるものなるかに思ふに至りてはその人の良心と行爲に對して疑なきを得ない。

貞操は婦人の生命であり道德の根源である。然るにそれを蹂躙するが如き制度の存在に對して憤怒せぬものがあらば、その人は必ずや自分の娘又は妹を世の娼婦の爲めに犠牲として差し出して居る人に違ひないと信ずる。もしさうでなくて自分の娘はいけない他人の娘ならば差支ないと云はゞ、その人は倫理の教育否社會の一員としての資格を自認せぬものであると云うても過言てはない。故に私は藝娼妓の存在を否定せぬ人に對しては必ず社會の爲に捧げた醜業婦の父であり兄であると認めて差支ないと信ずるものである。

然るに先日府下淀橋町に於いては町會の決議を以つて町の繁榮策として二業設置の請願をしたのである。これは多分町會議員諸君が花の會の花賣りの如く、町の爲めに自己の娘或は妹を藝妓、酌婦として業を營ませるものと信ずるが、もしさうでなくば彼れ等議員諸君の政治的道德的良心を疑はざるを得ない。そは彼の議員諸君が町に上前を差し出さんが爲めに醜業を營むものは他人の娘で自分の娘でないからと云ふならば、同じ心理情態て町の爲めには不利益でも自己の爲めに利益なる事があれば町民を平氣て犠牲にする事もないと限らないのである。て私は淀橋町民諸君に一言申し上げたい。それは「他人の悲慘なる境遇に對して深酷なる同情を抱懷せざるものはやがて自己の利益の爲めに他を賣るものなり」と

村上生

大正十一年十月十日印刷（毎月一回十日發行）
大正十一年十月十日發行（一部定價金二十錢）

編輯兼發行人　小石川區大塚仲町四十一番地　伊藤秀吉
印刷人　本郷區眞砂町三十六番地　佐藤駒次郎
印刷所　本郷區眞砂町三十六番地　日東印刷株式會社
發行所　神田區表猿樂町十番地　廓清會本部
電話神田四〇二〇番
振替東京二七〇七二番

◉御注文の際は必ず雑誌『廓清』によると旨を申添を乞ふ◉



明治四十四年九月一日創刊
大正七年十一月一日第三種郵便物認可
（大正十一年十月十日印刷）
（大正十一年十月十日發行）
（毎月一回十日發行）

明治四十四年九月一日創刊
大正七年十一月一日第三種郵便物認可
（大正十一年十一月十日印刷納本）
（大正十一年十一月十日發行）（毎月一回十日發行）

定價一册金二十錢